

第六回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

高校生以下の部 作品集

高校生以下の部

入賞・入選作品

【最優秀賞 題詠「文」】 一首

はじまれば別世界なる文化祭まだビスを打つ板に心に

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 高橋 健太朗

【最優秀賞 自由題】 一首

液晶をとおして見てる海の青その海の他の色を知らない

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 松藤 柚希

【優秀賞 題詠「文」】 二首

色褪せぬ恋文そつと読み返す 後悔なんてなかったように

群馬県高崎商科大学附属高等学校 3年 小川 真美

ローファーで春に残りし文を踏む雪は優しい嘘のかたまり

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

【優秀賞 自由題】 二首

昼過ぎの重たい瞼と時計の針ふいに浮かんだメロスの激怒

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 塩田 あまね

いつも言うあいさつおれいありがとう心がきれい完璧な人

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 るりい

【選者賞・伊藤一彦選 題詠「文」】 二首

いにしえの恋する乙女の文たちは今も響くぞ乙女心に

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

「いいコンビ」コメントに書かれるその文字が私にとっての地雷原

群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優妃

【選者賞・伊藤一彦選 自由題】 二首

クラスのねふしぎちゃんがねいるんだよでもわたしもねふしぎちゃんだよ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

スカイツリー見あげて思う人はなぜ高さを競う次はどこだ

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来



【選者賞・小島なお選 題詠「文」】 二首

文末に何かがないとマイナス2点行きたいのかもその先の道

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

目を落とし文字を追いかけてゆるゆるとペラリとめくる昼の催花雨

群馬県立利根実業高等学校 1年 本多 心乃美

【選者賞・小島なお選 自由題】 二首

坂の上金木犀が秋桜に囲まれたからもう届かない

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 綾華

桜散る校庭にぽつんと君がいたこれ見れるのも最期なのかな

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

【入選 題詠「文」】 二十首

その言葉一つ一つに責任をその一文字で相手はきずつく

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉真

感想文何書けばいいの分からない少し涼しい読書の時間

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

逝きし祖母のブリキの箱に戦時下の祖父の文ありゆるく束ねて

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

文句とは人が傷つくこともある文の中には意図がある

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 福澤 翔太

人の心それは繊細ですぐ変わるたった一つの言葉や文章を目にして

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 檜原 和紗

不思議だな人の作文を読むだけで人の心が分かってしまう

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

文豪のアニメにひかれて短歌かくすぐ諦める十三の夏

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 片山 柊冴

夏の日に文の宿題で母が見る母の爆笑ナンセンスだ

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 酒井 俊太朗

書き初めで学校の体育館に響き渡る半紙の音や文鎮の音

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 歩輝

字も雑で文もめっちゃくちゃだけれども幼い子らの愛ある礼状

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉澤 幸叶

少しずつ覚えて二語文使ってる君は必死に話してくれる

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

夏休みためにためてた作文がおそいかかってくる虎のよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 笛木 琉聖

小説の文を書くのは生きる人何かを残したのは死んだ人

群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

幼き日母が直したあの文字を今や母より上手く書いてる

群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 結愛

水上の古くから続く雪文化谷川岳に積もる雪化粧

群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 太貴

反省文五千文字ほど書かされて反省の色とは何色だ

群馬県立利根実業高等学校 2年 鈴木 旋瑠

引き出しに三年眠った文を見て最後の夏の音が聞こえる

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 美咲

君の文字きれいなところも引かれたよ。下手な丸文字好きでいてよね？

群馬県立利根実業高等学校 3年 五畠 玲奈

文はきてヤギに食わせる童謡を口ずさみかける国際電話

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

放課後に時代錯誤の「好きです」を入れた下駄箱アナログの文

群馬県立桐生高等学校 2年 宇田川 梨杏

【入選 自由題】 二十首

鈴虫が「お邪魔します」と羽鳴らす家の中には招いてないが

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 優里華

拳上げ世界が一つにまとまると戦う拳下がり始める

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 凌太

友達は約束なんてしなくても心の中でつながりあえる

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

体育着のそでの毛玉が学校の日々を重ねた実りかな

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

夢を見て歩いていてもいつまでも空に飛び立つ風船のまま

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 上田 駈

父と母いつしよに歩くあの道は小さい頃とは歩幅が違う

群馬県太田市立宝泉中学校 3年 田中 美遥

海の中もぐってみるとかわいい小さなフグがいっぱいいるな

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

盆休みほおずきおはぎに精霊馬祖父の笑顔を思い出しけり

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大翔

川のそば目を閉じきみと笑い合うずっとこうして笑っていたい

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 齋藤 美來

帰り際「じゃあね」と言って笑ってる手を振る君に寂しくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 茉美



イヤホンで音楽を聞く帰り道誰もいないと思っていたのに

群馬県立利根実業高等学校 2年

後藤 陽香

サツマイモ作業終わりに食べた秋チャイムが鳴って遅れた体育

群馬県立利根実業高等学校 2年

中澤 夢

「頑張って」よくある五文字それでもね君が言うから魔法の言葉

群馬県立利根実業高等学校 3年

高橋 希咲

愛犬はご飯を食べると重くなる散歩をしてもなぜか重くなる

群馬県立利根実業高等学校 3年

高橋 佑奈

長距離走疲れた後の澄んだ風走るのは嫌いでもちよつと好き

群馬県立利根実業高等学校 3年

白井 そら

朝方は寒い秋風吹いている大泣きをしたあの日を想う

群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 祐菜

夢なんていくらあってもいいじゃない神になるのも悪くないよね

群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

ささくれる割り箸タイプの人生飯が食べさえすればいいんだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 平澤 舜

茶毛猫と黒猫かさなるハーモニーわらびもちとはやわらかい猫

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

抹茶立てる響きがいいと友の言う明日締め切りの課題ある我に

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 明音

# 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、  
迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日  
向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看  
護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の  
庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水  
の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年（1986）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの  
手伝いをしていくうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学  
中から日経花壇に投稿し、2004年に最年少で角川短歌賞受賞。  
2016・2020年度「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同  
人誌「cocoon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。  
歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。

高校生以下の部  
【題詠  
||  
「文」

作品集

368人 517首  
投稿順に掲載

コツコツと残してくれた歴史がね今もつながる伝統文化  
太田市立宝泉中学校 2年 萩原 ひなた

文章は一人一人のストーリー気持ちを書いて一つの話  
太田市立宝泉中学校 2年 高月 りん

日が昇り猛暑が私を照りつける文化発展の代償なのか  
太田市立宝泉中学校 2年 白石 みひろ

不得意な作文だらけの夏休み時間だけがねすぎてゆく日々  
太田市立宝泉中学校 2年 竹澤 実玖

性格と顔の形は文字と同じく人それぞれ  
太田市立宝泉中学校 2年 水谷 茜音

文庫本開けば中につまってる楽しさ、感動、自信、希望  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

がんばれとみんな言うけれど難しい今年こそは文武両道  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

体育祭、合唱コンクール、修学旅行、校外学習、文化祭  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

文章で伝えるよりも直接言葉でその思い濃く深く  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

午後の国語お昼直後で少し眠い文を見ればさらにとうとうと  
太田市立宝泉中学校 2年 阪口 絵麻

夏休み今日のできごと何だろう振り返り書く一文日記  
太田市立宝泉中学校 2年 宮津 花

夢のため天文学に心良く学んでいこう自分のために。  
太田市立宝泉中学校 2年 西川 祐生

夏休み読書感想文は私の心を苦しめる  
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 玲愛

文句とは人が傷つくこともある文の中には意図がある  
太田市立宝泉中学校 2年 福澤 翔太

いま僕は頭を抱え考える簡単でない三十一文字  
太田市立宝泉中学校 2年 五十嵐 陽人

作文を書く気になるがなぜだろう読む気にならない読書感想文  
太田市立宝泉中学校 2年 佐藤 豪紀

文を読み自分の意志を貫けばこの世界すら貫き通せる  
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 凌太

人生の文太さも色も違うけど永遠につながる大切な道  
太田市立宝泉中学校 2年 石川 未来

いもうとと必死になって文取りをしているうちに絆生まれる  
太田市立宝泉中学校 2年 石川 未来

なにげない日常で書く文章よ明日の自分の力となれ  
太田市立宝泉中学校 2年 萩原 穂乃佳

紙とペンそれだけあれば心の声を文にできる  
太田市立宝泉中学校 2年 萩原 穂乃佳

この時代は話すよりも文のほうが入りつなされる最強じゃん  
太田市立宝泉中学校 2年 萩原 穂乃佳

英文が上手に書けずいやになるでも勉強することが出来るのは幸せ  
太田市立宝泉中学校 2年 木島 来斗

学文は身に付けなければならぬが世の中には出来ない人もいる  
太田市立宝泉中学校 2年 木島 来斗

文章のブラックホールに入ったらそこは不思議な本の世界  
太田市立宝泉中学校 2年 桑原 菜都音

愛おしき君の笑顔に魅了され無中になつてく僕の記事  
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 琉稀

言葉だと伝えきれない大切な自分の思い文字で届ける  
太田市立宝泉中学校 2年 稲村 音

様々な人が作った文明をかたりつないで生きていきたい。  
太田市立宝泉中学校 2年 岡田 波空

文章を作るのは難しいだから作文は苦てなのか  
太田市立宝泉中学校 2年 松下 姫葉瑠

文字を読むことができるね子もいればそれでもない子どもがいるよ  
太田市立宝泉中学校 2年 櫻澤 潤

耳があまり聞こえぬ君は空に文字大きく示す「しゃべってみたい」  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

文学や文法とかは分からないでも運動は自信があるよ  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

文字だけで示せなくても言葉なら分かりやすく便利なんだね  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

本気の男子盛り上がりすぎ文化祭中止になるもこれも青春  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

遠くても文を使えば伝えられる心にとどくか分からない  
太田市立宝泉中学校 2年 川上 泰斗

夏休み感想文に頭かかえて朝がきた  
太田市立宝泉中学校 2年 深津 乃愛

短歌の文作れと言われて作ったがいアイデアも無くこの結果  
太田市立宝泉中学校 2年 遠藤 雅大

文書問題が本当に苦手。だって日本語って本当に難しい。  
太田市立宝泉中学校 2年 高山 美心香

人の心それは繊細ですぐ変わるたつた一つの言葉や文章を目にして  
太田市立宝泉中学校 2年 檜原 和紗

夏休み宿題となった作文の私の文はいつも大嘘  
太田市立宝泉中学校 2年 田島 妃菜

夏休み課題に追われ休めない机にむかい考える文  
太田市立宝泉中学校 2年 中島 大晴

文の字は気持ちを示す道しるべ心は力は心  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 昂大

夏休みカレンダー見て思い出す作文なんか終わっていない  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

不思議だ人の作文を読むだけで人の心が分かっちゃう  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

国語って難しいけど楽しみもあるからいいね文字を書くこうよ  
太田市立宝泉中学校 2年 輪島 陽菜

文に表し送る言葉遠くの君に届けよ思い  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

この文化繋いでいこう未来まで歴史にのこる大切なこと  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

手紙の文読んでみればわかるはず大切な言葉書かれてはるはず  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

文章にこめられた思い大切にあいての気持ちわかってあおう  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

文と音、聞こえてキョロキョロとみんなこわがり小さく丸い  
太田市立宝泉中学校 3年 江口 夏紀

文房具勉強する時必需品受検勉強つきあってくれよ  
太田市立宝泉中学校 3年 田向 菜々

恋文をわたして伝える「あいしてる」今ではもう見ない文化  
太田市立宝泉中学校 3年 田向 菜々

お店での注文するは緊張だいつもはしないこのドキドキは  
太田市立宝泉中学校 3年 田中 美通

すみません反省してる僕の気持ち伝えるための僕の謝罪文  
太田市立宝泉中学校 3年 白田 貴一

文化の違い認めよう目指すべきは誰もが平等多文化社会

太田市立宝泉中学校 3年 大澤 七生

待ち望んだ花の便りが甘い笑顔で文字と想いを手紙に綴り

太田市立宝泉中学校 3年 利根川 智遠

人はみな意見が違い生きている多文化尊重いい世界へ

太田市立宝泉中学校 3年 西山 友菜

プリントに文豪の名をつらねてく歴史の授業文化の学習

太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

テスト中文字が密集眠くなる離れなくていい紙の上では

太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

問題文言葉足らずで分かりづらいテストの精度上げてほしいな

太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

感想文何書けばいいの分からない少し涼しい読書の時間

太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

短歌なら五七五と七七の三十一文字で思い伝わる

太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

直接は伝えられないこの気持ち文に書き留め伝えてみよう

太田市立宝泉中学校 3年 高田 朔太郎

文字と紙手に汗握る毎日が私の未来を作り上げてく

太田市立宝泉中学校 3年 新家 七海

町中でいたるところにある文字は世界の人と私をつなぐ

太田市立宝泉中学校 3年 新家 七海

文を読む書き手の気持ち取れる想像力も豊かになる

太田市立宝泉中学校 3年 栗城 ひなた

これからも人や未来が進歩する人の進化は文明開化

太田市立宝泉中学校 3年 栗城 ひなた

短歌でもきちんとして文を読むことで難しくても伝わってくる

太田市立宝泉中学校 3年 栗城 ひなた

作文をきらいと思う僕ですが終わった後はとてもすっきり

太田市立宝泉中学校 3年 鶴谷 莉玖

テーマ決め文章書くときいつもするひらがなや漢字間違いを

太田市立宝泉中学校 3年 山本 碧

脳の中大事な文を入れといていつかは忘れる大失敗。

太田市立宝泉中学校 3年 森下 千洋

カキカキが文が流れるゴジゴジ消えてくそのくりかえし

太田市立宝泉中学校 3年 森下 千洋

それぞれが文を書きたる筆の音感じるものは全員異なる

太田市立宝泉中学校 3年 川瀬 龍之介

一文字の間違いでだけ高校は遠下がるほど近くも遠い

太田市立宝泉中学校 3年 長沼 拓武

感謝を込めて「ありがとう」五文字の言葉は笑顔にさせる

太田市立宝泉中学校 3年 福田 実優

文字をつなげて書いた作文はその人の想いがつまっている唯一無二の作文だ

太田市立宝泉中学校 3年 福田 実優

入試時や頭を使い考える楽しかった分書けない文

太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 絢斗

夏の空〇〇文庫図書室の手が届かない幼き頃

太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 絢斗

夏の日に本を読み作文書こうもペン先止る

太田市立宝泉中学校 3年 渋谷 悠太

テストの時文章問題後に回すも時間足りなくなる。

太田市立宝泉中学校 3年 渋谷 悠太

勉強へ飛び交う文句でも僕は意味があること先見据えてる

太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

誰もが言う文武両道聞きあきた完璧なのが美しいわけじゃない

太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

文末に何かがないとマイナス2点行きたいのかもその先の道

太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

物語時々出てくるシチュエーション文通だつてやってみたいな

太田市立宝泉中学校 3年 堂前 美緒

夏休み宿題の読書感想文私の文章説明文

太田市立宝泉中学校 3年 堂前 美緒

どこにでも大事な文化守つてる年をとつても受け継がれてる

太田市立宝泉中学校 3年 荒木 洋人

夏休み最後に残る感想文早く書こうとあせるが進まず

太田市立宝泉中学校 3年 山崎 響人

課題やり終わらないとあせる心考え書くがつまる文字

太田市立宝泉中学校 3年 山崎 響人

文を読み色々感情知つていき私の思いも文で繋げる

太田市立宝泉中学校 3年 門倉 來夢

いつまでも忘れない文月の母とかわした最後の言葉

太田市立宝泉中学校 3年 倉田 日月

大丈夫？その一言に救われる困つてるときの魔法の呪文

太田市立宝泉中学校 3年 政野 向日葵

ありがとう文でかくのは簡単だけど私は文を言葉で

太田市立宝泉中学校 3年 大久保 はぐみ

ありがとう本当の気持ち伝えようピロピロじゃなくて自分の文字で

太田市立宝泉中学校 3年 吉田 ひとみ

夏休みゲームにせかされ忘れゆく多くの課題と感想文

太田市立宝泉中学校 3年 片山 悠斗

文豪のアニメにひかれて短歌かくすぐ諦める十三の夏

太田市立宝泉中学校 3年 片山 悠斗

ふと見えた小さく輝くその言葉文の中では主役になった

太田市立宝泉中学校 3年 上田 茉七海

本を読む知らない文字に出会う私は意味を調べるその繰り返し

太田市立宝泉中学校 3年 藤澤 樹花

文月の切ない梅には思い出す君の知らない私だけの秘密

太田市立宝泉中学校 3年 田畑 朱音

夏休み感想文を書くけれど難しいから時間がかかる

太田市立宝泉中学校 3年 三森 楓

短歌にさ文を入れると言ってくれど困りに果てて伸びてしまった

太田市立宝泉中学校 3年 三森 楓

しもおりて枯葉も踊る文化祭アイス片手に校内めぐり

太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

沙羅の花文が読めぬと本読めず嘆きたもうに我本を読む

太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

研究所文殊知恵の魅せどころ知の探究に熱心見せる

太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

期末テスト通知表そのあとは文月残り夏休みだし

太田市立宝泉中学校 3年 滝澤 結

受験生面接の文考える第一私望合格の為

太田市立宝泉中学校 3年 尾島 雫

一通の文を持ち続ける君からの夏でも冬でもどんな時でも

太田市立宝泉中学校 3年 笹山 拓海

作文に文字を書けども出てこない出てくるのはかすというボツ

太田市立宝泉中学校 3年 酒井 俊太郎

夏の日に文の宿題で母が見る母の爆笑ナンセンスだ

太田市立宝泉中学校 3年 酒井 俊太郎

気が付けば夏休み前本借りの地獄の始まり読書感想文

太田市立宝泉中学校 3年 栗原 朔

悪口を会って言うことできないなら文章で言うことやめようよ

太田市立宝泉中学校 3年 津久井 蒼來

文字で伝える自分の気持ちを一枚の紙からあふれる笑顔

太田市立宝泉中学校 3年 津久井 蒼來

文を読み友の言葉にほろと悲しみつもり涙もつもり

太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 悠里

文章で仲間と通じる部活ノート優勝目指し努力した証

太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

夏休みいつも残る最強ボスみんないやがる課題作文

太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

夏休みあと一日でペンを持つ作文進まず題名と名前

太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

テスト中残り五分でいやな予感時間が足りず書けない作文

太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

社会理科記述で解われる手進まず文をかいてもまともならず消す

太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

文とはいつの時代も変わらない誰かの心をつき動かすもの

太田市立宝泉中学校 3年 塩田 あまね

教室の窓側のはじのコンクリートほられた文に誰かの告白

太田市立宝泉中学校 3年 塩田 あまね

めんどろだ文をかくことだるすぎだ学校行くのもめんどろだ

太田市立宝泉中学校 3年 新島 達也

文章で変わって欲しいと思ってるみんなに問いかけコロナ対策

太田市立宝泉中学校 3年 小林 真悟

受け継ごう歴史に残る世の中を守りぬこうよ伝統文化

太田市立宝泉中学校 3年 小林 真悟

SNS文字打つ前に思い出そう言葉にしても大丈夫

太田市立宝泉中学校 3年 萩原 芯太

文つける返事はまだか期待するいつになってもこない返事

みなかみ町立みなかみ中学校 1年 服部 陽向

うちの猫こちらを見ては文句言う外に出たいと窓の近くで

みなかみ町立みなかみ中学校 1年 宮嶋 珠里

赤とんぼ暑さの残る空に飛ぶもうすぐだよと秋からの文

みなかみ町立みなかみ中学校 1年 宮嶋 珠里

伝えたい会えない人に送りたい届いて感謝文章にのせて

みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

まだ知らぬ未知の自分に文を書く日々の思いで日記帳

みなかみ町立みなかみ中学校 1年 森本 歩積

夏休みさいごの日まで残しとく感想文がとても大変

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

大好きなあなたを思うこの気持ちこれは文章では表せない

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

文字かくよふだんあえない人たちに日ごろの思いを伝えてみよう

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

鏡文字小さな頃に書いていた今となつたらいい思いでた

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

文月に生まれた私伝えたい気持ちあふれて手紙かく

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

文月はみんなの色で色付く群青の空アオハルだ

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

作文の課題が嫌すぎて放置すると何もやらずに学校に向かいます

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

ありがとうその五文字には意味がある感謝を表す大切な言葉

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

文学を真面目にやれば文学が自分を支え自分を助ける

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

時はたつ思い出もいつか消えてゆく時はたつ文はいつも残っている

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

夏休みワーク配られやる気出す問題文見るとさらにやるき出す

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 笛木 源仁

ごめんねとメールに文字を打とうとやはり手を止め文に目を向く

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

天文台天井見ればキラキラとレンズのぞけば君の黒星

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

文様は人の心のようにまた人の心は文様に似て

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼牙

なくならない文化はどこにもないけれど消えゆくものをさみしく思い

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼牙

文を書く目につるのはただの紙だけけど心は広い世界

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼牙

文章はただの記号の集まりだけだけどそれは笑いと幸せを運ぶ

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼牙

文字を書く変わって今は文字を打つだけ変わらない文字の楽しさ

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼牙

文字を書くあたりまえにできることありがたいとかんじるころは

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 幸乃羽

言葉と文この二つにはそれぞれの意味があつて便利だな

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

文章読むとだんだん眠くなりいつか絶対寝落ちする

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

文書いて自分の字の汚さ驚いて書いては消しを毎回繰り返す

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

親戚に久方ぶりの手紙来て文字を見る再思い出すかな

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大翔

夏休み毎年恒例工作の文句なしまでただ作っている

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大翔

想いこめつたない文字で書く手紙まずはキレイに書くところから

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 原 慧周

作文の上に寝そべるへそ天の猫のせいにして休憩中

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 原 慧周

文章で伝わる言葉にできない気持ちを表せる

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 林 佑哉

暑い夏書を読む僕の心の中に文の気持ちが熱く伝わる

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

受験生努力しても実らぬ苦勞気持ちを下げる文月の雨

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

悩む僕何を書くこうか迷ってる文を消してはしかめつ面に

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

おばあちゃんとスマホで文章送り合いおかしな誤字に微笑む私

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 加藤 珠美

言葉ではうまく言えない感謝の気持ちこの文につて伝わるように

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 片桐 静流

言葉では互いの気持ち分かるのに唯一分からぬ文字での会話

群馬県立利根実業高等学校 1年 牛口 南海

ありがとうたった五文字を声にして人と人との大切な言葉

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 幸来

文化祭三年に一度時長し友と過ごす日々矢の如きかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 さくら

文月に縁側に座り飲む麦茶上見あげれば紺碧の空

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 夏奏

可憐な華描かれていた文箱の中思ひ人との嬉々たる会話

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 夏奏

恋心呪文のように唱えるが実らぬその恋心に蓋して

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 みさと

文月にスズムシ鳴く声響く空黄の光舞う空の彼方へ

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 みさと

選ぶ文字あの子の心つかむため書いては消して動く指先

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 真優

あの人と遠くなったこの距離はもう伝えられない「好き」の二文字

群馬県立利根実業高等学校 1年 郷原 琴

文机に向かう若者懐しみ窓の外からエールを送る

群馬県立利根実業高等学校 1年 石坂 沙羅

頑張つてその一言が送れずに文はやりたし書く手は持たぬ

群馬県立利根実業高等学校 1年 石坂 沙羅

文を書くあなたに送ったその言葉私に届くあなたの思い

群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 琴音

とある日にあの日みつけた文を読みあの日夢みた友思いだす

群馬県立利根実業高等学校 1年 青柳 博大

夏休み最終日の夜作文がやってくなくてなきながらやつた

群馬県立利根実業高等学校 1年 赤崎 希

先生にもらった手紙と文房具思い詰まった宝物

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 和真

その言葉一つ一つに責任をその一文字で相手はききつつ

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉真

書き初めて学校の体育館に響き渡る半紙の音や文鎮の音

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 歩輝

人生は文と同じ文の良さ悪さは文字の組み合わせから

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮

いにしえの恋する乙女の文たちは今も響くぞ乙女心に

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

冬の夜天文台に人集まる上見あげれば一面星空

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

素晴らしい礼儀作法は日本のみ世界に誇れる我が国文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 勝見 早希

作文は書こうとすると中々に思いつかない始まりの文字

群馬県立利根実業高等学校 1年 飯村 杏花

懐かしく本を広げて文字読めばあの頃と違う別の発見

群馬県立利根実業高等学校 1年 大竹 莉緒

文送り君から返事待つことも今とは違う前の楽しみ

群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 椛

文化祭皆が期待楽しむと妄想激し恋の発展

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮川 愛永

文房具買ってもらってうれいな最後まで使ってあげなとお母さん

群馬県立利根実業高等学校 1年 平形 杏里

紅葉に染まる景色を背景にあなたを思い文を書くかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 花茂 衣舞姫

秋の候本を手に取り文を読む秋の定番読書の秋

群馬県立利根実業高等学校 1年 花茂 衣舞姫

コロナ禍で会えない人に文送るアナログだからエモく感じる

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸星 愛瞳

成人式過去の自分の文からのコメント厨二でちよつと恥ずかし

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸星 愛瞳

少し幼い文の内容読む私それでも母は笑つてくれる

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸星 愛瞳

この気持ち文字にするのは難しいそれほど私は今も幸せ

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 心音

真夜中に天文台で見る星は心に残る名場面かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 楓

字も雑で文もめっちゃくちゃだけれども幼い子らの愛ある礼状

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉澤 幸叶

恋文をもらってみたい一度はね今はラインよロマンがないわ

群馬県立利根実業高等学校 1年 野村 彩心

夏休み嫌だとさける感想文最後に残りやらずに登校

群馬県立利根実業高等学校 1年 峰川 柑奈

書くほどに尖りをなくし丸くなる文書くほどに心おだやか

群馬県立利根実業高等学校 1年 萩原 来人

文月に願い叶えと短冊へ笹も揺れるし心も揺れる

群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 陽依

友人にひつこくたのむ願い事文句も言わず助けてくれた

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 向日葵

思い出がたくさん入った文集は見返すたびにここに

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 竣平

文化祭笑顔溢れる自然にねそのとき心は清らかなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 竣平

卒業式手に渡された文集を友達と読んで涙を流す

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 香月

天の川二人をつなぐ赤い糸文月の季節少し切ない

群馬県立利根実業高等学校 1年 山後 梨愛来

私宛て文面見れば好きの文字文月の夜懐かしむかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 茉美

文章題例文の意味分からずに家に帰って文句言うきみ

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 茉美

作文を読んでる君は真剣で聞いている私は文の中かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 茉美

旅に出て言葉や文字が違つても心は同じあなたの笑顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 三浦 真珠

目を落しし文字を追いかけるゆるとペラリとめくる昼の催花雨

群馬県立利根実業高等学校 1年 本多 心乃美

文を書く心がなくなるいつかハなくなることに悲しいことだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 るりい

文目咲く信じる者は救われる自分へ送るエールの花束

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 叶実

まっ白な作文用紙とり出して何を書こうか考える君

群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 穂夏

オレンジに染まる山々ながめては文字にはできぬ秋の訪れ

群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 日華

文月になると思うことがあるあ夏だなとまだまだこれからだと

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 光希

朝起きて気づく休みの短さを文机の前なにもせず寝る

群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 希凌

頑張つてこの文字だけで元気である母の応援何よりの力

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 莉夢

初バイト家から遠く怖いけどいろいろな経験しよう文握り締め

群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 里桜



文化祭楽しい話聞くけれど自分は知らないその世界

群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 里枝

美しき日本の文化古くから伝わるものはほこらしい

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮

山奥に静けさ広く一軒家文書き思う人恋しけり

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 ゆう

会話のとき主語がなくて困ってる文を正せばもう解決

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 柚実

守ろうよ日本の文化いつまでも誇りに思うおもてなし心

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 柚実

日の丸は謙虚で正しい人ばかり他の国とは異色の文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 耀

早起きは三文の得と言けれど朝が苦手でもまた二度寝

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 陽

流れてく日本の歴史海外に文化がえど同じ人々

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 智紀

文月や暑さ忘れて水遊びの川にも届いてしまふ

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 周斗

文化祭大繁盛の校舎内見える景色は小さな頬笑

群馬県立利根実業高等学校 1年 尾身 結菜

文字の中字がきれいな文脈でえんびつけずる音がする。

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 龍菜

少しづつ覚えて二語文使ってる君は必死に話してくれ

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

空に咲く花火の音にかきけされ紡いだ2文字言えぬまま

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

おぼろ月照らした君に恋焦がれ忘れぬ想い文にしたため

群馬県立利根実業高等学校 1年 大島 遼華

考えるどんな文字を書けばいい君に届ける春の訪すれ

群馬県立利根実業高等学校 1年 尾池 みのり

文学は色々な人が知ってる知らない人はいるのだからうか

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 杏菜

いにしえの男女が出会い恋焦がれ想い人へ送る恋文

群馬県立利根実業高等学校 1年 飯森 媛

暑いかな文月の地獄きびしいな来年こそは涼しい日かな

群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 琉心

夏休み作文書くの憂鬱で取り掛かるのはいつも後半

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 愛音曇

今までの歴史でできた異文化は皆で守りとおしていこう

群馬県立利根実業高等学校 1年 水落 亮太郎

卓球しているときに下見たらボールがあつて文句を言った

群馬県立利根実業高等学校 1年 井熊 蒼依

「頑張れ」とノートの隅に母の文字その三文字に支えを受けた

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 優愛

空に咲く花火の音にかきけされ紡いだ2文字言えぬまま

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 透也

宵の口文目も分かんず立冬の暗き寒きで少し小走り

群馬県立利根実業高等学校 1年 関上 葉奈

外出ると景色も変わり秋の空春夏秋冬日本の文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 花音

入学し友達できず携帯に一人さみしく文字を打ち込む

群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 蓮

夏休みいつも最後に残るのは毎年同じ課題作文

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 瑠偉

言文の授業で短歌書け言われ悩む皆をながめる先生

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 要

あなたへの文を送るが返事こそ好きな人へのせつない気持ち

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 涼

友達がモチ期到来羨まし僕にもくるか待つぞ恋文

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 幸也

まじ書けない文を入れるとかむずすぎるだからしらべてパクっちゃおう。

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 葉佑

夏祭り好きな子と見る花火では文無しなほど綺麗に見える

群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 陽生

想いを伝えようと握った恋文には涙がにじんでいた十四の夜

群馬県立利根実業高等学校 1年 塩野 大志

「はいっ」という大きな声が響く部屋皆でやった群馬の文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 会津 歩華

学校で教わる古文のためならずならば教えよびえんの意味を

群馬県立利根実業高等学校 1年 小澤 聖司

文月の七日に行う七夕で願いをこめてつるす短冊

群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 庸司

ティックトックでコメントするとき気分は文豪だが誤字だらけ

群馬県立利根実業高等学校 1年 梅澤 飛成

文章で毎朝見れる私生活生きているだけで我ら幸福

群馬県立利根実業高等学校 1年 根岸 真央

君と僕秘密のその文通その中に芽生えた恋心を大切に

群馬県立利根実業高等学校 1年 片山 悠聖

作文の用紙を広げて座る自分なにもうかばずのばす毎日

群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 永真

文無しと言われ悲しむ我が心とても静かな夜の虚しさ

群馬県立利根実業高等学校 1年 木村 日陽

さよならのたった四文字で君のこと忘れられるわけがないだろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 石井 晴貴

学校の教科の中で一番は毎回楽しい言語文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 目崎 真飛

文とは想像であり現実的におこるかもしれない物事

群馬県立利根実業高等学校 1年 小室 琥太郎

教科書の文を読むたび眠くなる睡魔と闘う午後の数学

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 玲雄

夏休み宿題やら最終日深夜に起きて作文をする

群馬県立利根実業高等学校 1年 上岡 拓未

この思いを文にするのは難しいからラインじゃなくて直接言いたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 頌泰

「きらきら星」歌う姿は美しく夜空にささげる文のよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 小山 創太

「あきらめない」その文句を胸に少女少女は手をのばす

群馬県立利根実業高等学校 1年 小山 創太

その文化昔栄えど今は亡き時代の流れとても早けり

群馬県立利根実業高等学校 1年 小作 祥太

縄文の息吹感じるこの土地に受け継がれてくは先人の遺志

群馬県立利根実業高等学校 1年 小作 祥太

日が暮れてもう会えぬと知り名を呼んだもう一度二人で文月の夜

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 壮

音と文気持ち伝える方法はいつでもここにとつととなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 智裕

文を書く感情込めてひたすらにそうすれば明日誰かに届く

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 智裕

さよならのたった四文字で君のこと忘れられるわけがないだろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 福原 聖翔

この文を考える事一時間思いついたよこの作品

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 叶空

言葉だと形を知れるものだけど文は想いを伝えてくれる

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉翔

寿司や蕎麦寺や着物や歌舞伎などこれら全てが日本の文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 笹田 拳伍

バイト中中文句客腹が立つ気持ち抑えて対処する

群馬県立利根実業高等学校 1年 笹木 琉聖

夏休みのためにためた作文がおそいかかってくる虎のよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 笹木 琉聖

文なしに伝えることも遺言も残すこともできぬなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 渡辺 龍聖

文真堂に行ったが無いスプラ3やりたかったインク塗り

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 朝幹

言文の宿題やるが何も浮かばず期日がせまり我焦燥す

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 瑚虎

一文なし水飲みたくて友にねだり友も同じく友にねだっていた

群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 晴登

「いいコンビ」コメントに書かれるその文字が私にとっての地雷原

群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優妃

「この手紙があなたに？」その文を書く余力があるなら生きる努力をして欲しい

群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優妃

文学を学んでみようと思っただが難しすぎて理解できない

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 一真

炎天下竹棒削り汗ながす空飛ぶとんぼ感じる文化

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉澤 豊

海外で生活したいいつの日か肌で感じる異国の文化

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 心

散歩道古い文具屋立ちよると紙の香りと落ちつく心地

群馬県立利根実業高等学校 2年 鈴木 瑠奈

君想いかけた言葉も逆効果心が読めたのならば

群馬県立利根実業高等学校 2年 武井 杏樹

おはようと言って始まる学校の文句ばかりがあふれ出てくる

群馬県立利根実業高等学校 2年 齋藤 舞

お家では何の文化があるのかと気になり始める文化の日

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 翔子

文字を書くその時々を考える日本語はとても難しいなと

群馬県立利根実業高等学校 2年 関根 百合音

文化祭あなたはどこに行っちゃったの心ときめくあなたを探す

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 紅留未

君が書いたこの文章君の世界はともきれいだ

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 紅留未

肌寒い秋真剣に読む文章好きなの見つかる読書の秋

群馬県立利根実業高等学校 2年 林 歩未

ペンライト光り輝く体育館文化祭でのバンド演奏

群馬県立利根実業高等学校 2年 小宮 羽菜

文学や運動とかも大事だが時には仲間と楽しく過ごそう

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮川 学徒

小説は文字しかないと思いがち読めばわかるよ時間を忘れて

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮川 学徒

みなかみに文句はないが田舎道

群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 源希

文字書いて行き先伝えた幼き日スマートフォンも何も持たずに

群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 源希

昔から今に続いたその文化多くの人の幸せのもと

群馬県立利根実業高等学校 2年 平澤 月華

文化祭現実忘れた十八歳みんなつたスターマンに

群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 幸聖

君へ送る恋の言葉は文が読む時代は変へども変わらぬ言葉

群馬県立利根実業高等学校 2年 吉田 宗太

遠い君会えないけれど恋い焦がれ想いを伝える文通相手

群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 凜

作文の字数足りずにあせる夏休みは長く文は短い

群馬県立利根実業高等学校 2年 秋元 はな

冗長な邪念を抱く秋の宵文目も分かず刻んだ利那

群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 美瑠

文彩に浸るカッパルせいやの町静かなるりが傾くもある

群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 美瑠

母の日に感謝の言葉文字たよる次は直接伝えられるかな

群馬県立利根実業高等学校 2年 須田 茉綾

梅雨明けて待ちに待った文月の優しく包む南風よ

群馬県立利根実業高等学校 2年 和名城 夢羽

文通を楽しむ時代があったのか今ではスマホが連絡手段

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮内 光里

文通をしなくなったこの時代スマホを使わずたまには手紙を

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮内 光里

テスト前ひたすら文字読み叩き込む着席同時に内容飛ば

群馬県立利根実業高等学校 2年 中村 依奈

あなたとの最後の思い出作るため勇気を出したあの文化祭

群馬県立利根実業高等学校 2年 中嶋 莉那

夏休み家でごろごろ忘れてる最後に残した作文用紙

群馬県立利根実業高等学校 2年 近藤 瑠乃

どこからか届いた手紙誰だろう文字で分かるよ誰からか

群馬県立利根実業高等学校 2年 片桐 香葉

君の文字書いては消して跡残るテスト返され確認する

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 沙和

好きだよのたった四文字言えなくて自分を責める今日この頃

群馬県立利根実業高等学校 2年 桑原 凜

文通が二人を繋ぐ時が経ち君の声すら思い出せない

群馬県立利根実業高等学校 2年 野上 夢奈

文月から肌寒くなり緑色落ちて緋色に染まる秋の紅葉

群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 和仁

冬晩寒さに震えて文字書けず

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 慧太

秋の山色とりどりの文見て和菓子を食べればほっと一息

群馬県立利根実業高等学校 2年 後関 紅雅

文章は小さい頃からついてくる大人になったらきつと分かるな

群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 ちなみ

一目惚れまたあなたに会いたいねこの気持ちを文字にしよう

群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 柚子

文字を見て成長したねそう思う幼き頃の漢字のノート

群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 柚子

短冊に願いをこめて文字をかくあなたの夢が叶うようにと

群馬県立利根実業高等学校 2年 戸山 春和

なつかしいふとしたときに思い出す長期休みの課題作文

群馬県立利根実業高等学校 2年 小菅 杏佳

君が好き何度も思ったこの五文字君にはもう伝えられないね  
群馬県立利根実業高等学校 2年 入澤 心

文章が新たな君を変えてみる希望と夢を現実になれ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 諸田 はるな

文月の夜空に輝く星眺め叶わぬことはわかっている  
群馬県立利根実業高等学校 2年 角田 佳奏

伝えたい文字も伝えられぬまま、心で叫ぶ君への思い  
群馬県立利根実業高等学校 2年 古谷 仁奈

文字の意味知らずにいると気づくこと有難み持ちふと思うこと  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 まなみ

文章の構成決める成り立ちを考えてみる素晴らしいこと  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 まなみ

言葉はね文章などで伝わるよ楽しいことも増えていくんだ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 まなみ

文渡し幼き頃の宝物拙い文字に籠もった思い出  
群馬県立利根実業高等学校 2年 金井 由美

秋おわり見えてくるのは冬の色さりと書かれる冬の文  
群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

私には胸を張れる恩師がいる書くべき文には一つだけでも幸せです  
群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

小説の文を書くのは生きる人何かを残したのは死んだ人  
群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

文化祭いろとりどりの展示物一人一人の個性あふれている  
群馬県立利根実業高等学校 2年 倉品 肖那

人類の進化で創る文明は時代で変わるこの世の賜物  
群馬県立利根実業高等学校 2年 関 優獅

ありがとう家事を行う母の霜焼伝えた五文字類も赤くなる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 増田 鈴世

文学者歴史を学び知っていく昔を知って今に繋がる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 龍誠

文化の日俺にとっては休みの日理由などいい休めればいい  
群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 成歩

木枯しに久しく出す文かじかむ手想いはかわらず小さいポスト  
群馬県立利根実業高等学校 2年 池田 冨絵

貴方への想いも込めた恋文は机の中で眠ったままに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 美来

文化祭展示たくさんみんなには笑顔たくさん与える力  
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸川 翔

作文は過去の経験振り返り我の人生未来につなぐ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸川 翔

話せない心の叫び今は手話聞こえてた声文字へと変化  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里葉

嫌なこと好きになれない変化ない呪文唱える生活の日々  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里葉

文月は青春の日々誰もかも輝くことができる瞬間  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里葉

亡き祖母の封筒にあるよれた文字見るたび思う祖母の優しさ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 八木 里実

黒板の文字を消すたび立ちあがる君の姿をついてしまふ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 八木 里実

あなたからもらった手紙読んでみるあなたからの気持ち伝わる文字だ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 吉池 輝波

文章は書くまでがだるいでも人はかきはじめたらスラスラかける  
群馬県立利根実業高等学校 2年 吉池 輝波

寂しい夜暗い画面とにらめっこ「会いたい」の文字思い強まる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 愛花

幼き日母が直したあの文字を今や母より上手く書いている  
群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 結愛

イベントのMCになり考えるいい文章思いつかない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 陽香

パソコンの文章作成計算のsumなんて分からないよ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小池 蒼空

文化祭当日よりも前日の準備のほうが楽しいまでである  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小池 蒼空

闇夜にて月影も無い黒色に文目分らず進む帰り道  
群馬県立利根実業高等学校 2年 志賀 香音

頭から出てくる言葉書き出せば想像違う文完成  
群馬県立利根実業高等学校 2年 志賀 香音

会いたいと私の想いをしたためた文はかえり貴方はかえらん  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 千夏

下駄箱に恋文一通入れてきたあの子は明日来てくれるかな  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 千夏

手伝ってその一言に文具置く右手に杓文字夕飯準備  
群馬県立利根実業高等学校 2年 南雲 彩香

意味込めて文字を繋げたこの手紙お願い早く君に届いて  
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 批愛

幼き日文字を見るたび蘇る懐かしい時いつまでもそこに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 実生

あなたからもらった文は宝物文字から伝わる不器用な愛  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

あなたへとついに送った恋文秘めた想いよ果たして届くか  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

忘れてくあなたの顔や声匂いとても好きだった文字のかたちも  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

交わし合う文どうしの読み合いが恋の駆け引き己の勝負  
群馬県立利根実業高等学校 2年 我妻 璃一

文面で伝えることも良いけれど直接言う気持ち伝わる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 河合 蒼太

水上の古くから続く雪文化谷川岳に積もる雪化粧  
群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 太貴

文化の日自由と平和愛す日に文化を学び歴史を繋ぐ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田子 童次郎

自分たち日本の文化広げようあの世代に繋ぐ未来へ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 川田 伊織

LINEではなくて言葉で言わないと文字で気持ちは伝わらないよ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 川田 伊織

作文を書いたのは良いが殴り書き一文字一文字丁寧な字で  
群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 大河

近頃の子供はみんなスマホ見て日本の文化忘れるべからず  
群馬県立利根実業高等学校 2年 原 悠也

反省文悪いことして叱られたネットで見つけバレー怒られ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 脩登

私たち心ひとつに赤城団、燃える炎と学ぶ文学  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高井 煌晟

授業中黒板に書いた白い文字、ノートに書くよ黒い文字  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高井 煌晟

恋思う君から受け取る恋文は君への想いより強くなる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 大雅

電子の文それでも別に嬉しいよ?でも直接言ってほしいな  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山之内 知夏  
文脈を理解苦しむ毎日に本と一緒に空気も読んで。

群馬県立利根実業高等学校 2年 水尻 和吹  
君くれた想う手紙は自分かなその文見たいと思うべからず  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 廉

5時間目数学の時嫌になる文問題が眠気を誘う。  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田村 悠朔

反省文五千文字ほど書かされて反省の色とは何色だ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 鈴木 旋瑠

文化の日自由と平和世界に届け夜空に輝く火花にのせて  
群馬県立利根実業高等学校 2年 河合 悠真

ペン止まり電源つけた電子辞書最後の一文悩む長い夜  
群馬県立利根実業高等学校 2年 宇敷 怜奈

あの本の一文よんだ後の余韻夏を残した秋晴れのよう  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小野 龍星

今ではもうなくてはならない唯一の存在感謝感じる文明の利器かな  
群馬県立利根実業高等学校 2年 村上 幸輔

あなたには文で伝える想いより声で伝える好きの二文字  
群馬県立利根実業高等学校 2年 塩原 佑弦

文章を書くのが苦手Yがやってくれたら楽だろうなあ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 隆一

文学が停滞していくのご時世文学なけりや未来も停滞  
群馬県立利根実業高等学校 2年 橋壁 昊

夏休み期限近付く感想文やる気出なくていつもぎりぎり  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 友斗

文月にまぐる鮮やか白シャツとゆれるカーテンわたしのアオハル  
群馬県立利根実業高等学校 2年 仲澤 由依

「大丈夫」この言葉で強くなれる私だけの魔法の呪文  
群馬県立利根実業高等学校 2年 水落 多恵

学校の今まで築いたその文化先輩方からバトンを受け取る  
群馬県立利根実業高等学校 2年 宮田 翼

初めての高校最後の文化祭楽しいけれど寂しさもあり  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山田 勇心

文字だけで伝わることはあるけれど表情だけは伝わらない  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 くるみ

文を書く今年いつもこの時期に出しても届かぬ君はもういない  
群馬県立利根実業高等学校 3年 大澤 柚香

伝統文化知らないことが多くあるたたくさんのこと知っていろいろよ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 美希

書きなれた右手をやめて左手に文見て耽る一番最初  
群馬県立利根実業高等学校 3年 中林 花恋

引き出しに三年眠った文を見て最後の夏の音が聞こえる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 美咲

あの時に君が文言だったからいづれか時にまたきかまほし  
群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 将義

塾終わりもらった手紙君の文字もう来ないよと話入らず。  
群馬県立利根実業高等学校 3年 五嵐 玲奈

君の文字きれいなことも引かれたよ。下手な丸文字好きでいてよね?  
群馬県立利根実業高等学校 3年 五嵐 玲奈

作文を書いてと言われた下手です努力無くなり悔しい思い  
群馬県立利根実業高等学校 3年 羽賀 太一

作文の字が汚いと言われた日美文字ノートは未だ持たえず  
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 琥太郎

文文蜂が飛文お池の周りに蜂が飛文  
群馬県立利根実業高等学校 3年 野上 勇氣

文を手で過去の自分と会話する過ぎし日々を思いを馳せて  
群馬県立利根実業高等学校 3年 丸山 未夢

ありがとうあなたが書いた一文字を目で追って踊るは心  
群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 乃々香

進まないペン先止まり文字書けぬ集中するのはまたあとでだな  
群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 翔太

面接の為考えてきたこの文章!一だけど本番頭真つ白  
群馬県立利根実業高等学校 3年 牛口 朔弥

文句の多い爺だと小さい頃は思ってたけども今は愛の鞭ムチ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 琉衣

考え中なかなか良い文でてこないあつという間に過ぎる時間  
群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 寧音

嫌だねと文句を並べ断るが君の好物完成したよ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 祐菜

恋心五年熟成書き込んだ文の返事は届くことなく  
群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

「元気だよ」と文字におこして遠き母に送る私の日常  
群馬県立利根実業高等学校 3年 川端 真羽

突然のプレゼントに添えられた一文字ずつから愛しさ溢れる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 楓佳

君想い日々考えて今日この頃いつ渡そうかこの恋文を  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 楓

この恋は届きはしない相手には届かぬ思い文に綴るよ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 飯塚 拓海

本を読み文字や知識を学んでくうちに少し知識が増える  
群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 礼人

文化祭みんな楽しみ結果よし残るは進路ありがと友よ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 林 宏樹

脈なし文章辛く痛く悲しい現実だ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 直人

様々な物価が高騰息詰まる文句の一つ言いたくもなる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 稲垣 寛太

文化祭とてもワクワクするものだ高校一度のビッグイベント  
群馬県立利根実業高等学校 3年 東 聖也

授業終わってみれば早かった読めない文字がノートに残る。  
群馬県立利根実業高等学校 3年 中田 留唯

文章で伝わらないのはわかってるほんとは直接話したい  
群馬県立利根実業高等学校 3年 大塚 悠真

みんなだね指折り文字を数えつつどんな短歌を書こうか悩む  
群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 結音

古代から進化を遂げる文字文化今では世界で必要不可欠  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 右京

紙の前「何書こうかな?」一文字目ペンを添えふと考える  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 右京

後世に伝えねばならぬこの想い文にこめられた偉人の思い  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 右京

「両想いの君へ贈るのはただ一つ「大好きだ」その四文字である  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 右京

久々に母校の文集手にとつて今よみがえるあの頃の日々  
群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 右京

君くれた可愛い文字の恋文に泣いて喜ぶ二十一日  
群馬県立利根実業高等学校 3年 萩野 煌晟

山を越え君から届く文の声待ちわびけりは夜も眠れず

群馬県立利根実業高等学校 3年 小岸 相夢

好きだよと送った文は朝までに返ってこない送信取消

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 詩織

本の中見つけた文を繰り返し言葉が心に残り続ける

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 りさ

文ぼう具便りに使って地理学ぶ長野といえは松本城だ

塩尻東小学校 4年 細越 和樹

作文は文字で表すできごとを楽しみ思い出のこしておける

塩尻東小学校 4年 細越 和樹

文を書くむずかしい字もあるけれど次は文章何て書こうかな

塩尻東小学校 4年 立道 はな

何をかく思いつかない作文が何かしたかなあつこれにしよう

塩尻東小学校 4年 立道 はな

文房具えんぴつ、じょうぎ、けいこうペンを買おうかまよつちやうなあ

塩尻東小学校 4年 立道 はな

先生に手紙を送る文字を書いていねいに書いて完成したよ

塩尻東小学校 4年 立道 はな

お兄ちゃん中学校の文化祭終わったら花火すごかったなあ

塩尻東小学校 4年 立道 はな

文字がきれいなのはほめられるわたしもいつかあのこみたいに

塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

文化祭美術部だから絵がうまいポケモン大好き中3の兄

塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

ねる時間よくねむれない文具数える1、2、3、4、5、6、7、ああよくねむれる

塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

いい音だ文化祭みたいあれいだいいよまつりみたいドンドンドンドン

塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

文化の日みんなはお休みわたしはじゅくだいいいなみんなは

塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

文房具筆箱の中ばんばんにペンにえんぴつ何個もあるな

塩尻東小学校 5年 白木 千愛

習字する文鎮おいてさあ書こうお手本よく見てべつとりすみも

塩尻東小学校 5年 白木 千愛

国語やる文字見つけたら楽しいな国語の世界に入ったみたい

塩尻東小学校 5年 白木 千愛

放課後の宿題やるの大変だ文字書いてたらねむたくなるな

塩尻東小学校 5年 白木 千愛

文ぼう具もってきちゃダメそでくすえんぴつおいて学校へ

塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

宿題をやるためにはね文字をかくめんどうだけどいざ宿題へ

塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

文ちゃんをおこうとしたらいてててて文ちゃん足におちつたよ

塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

楽しいね文字かくことを見つけたよ短歌かいてみた楽しかったな

塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

たくさんの文字をかいて手がいたいちよつとまってよつかれたよ

塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

文房具小さいさくなればえらくなる長く使ええらくなつてく

塩尻東小学校 5年 上野 有己

文化祭みんなで作るお楽しみ会みんなで作るみんなの笑顔

塩尻東小学校 5年 上野 有己

おきてくれ時間になるぞ文学をコタツでするといねむりするぞ

塩尻東小学校 5年 上野 有己

文字かいて計算終わらせて宿題終わら自由時間だ自由にはしゃげ

塩尻東小学校 5年 上野 有己

おこずかいコツコツためて文具店えんぴつかうぞケシゴムかうぞ

塩尻東小学校 5年 上野 有己

プレゼントとつてもうれしいプレゼント文字をもらったプレゼントにね

塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

空を飛ばう文といっしょに空を飛ばう自由気ままに楽しんじやおう

塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

文を書くこのよになぜ文字がある？楽しい時もうれしい時も

塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

おどつてる文字がおどつてお祭だ文字がおどるよ自由にはねて

塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

旅に出る文ぼう具達これからね自由になるんだ旅に出ようよ

塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

なんの音楽しそうな音ワイワイと？近くからする文化祭だな

塩尻東小学校 5年 平尾 愛侖

じゅぎょうでねかんそう文をかくことにいろいろみかえしいのができた

塩尻東小学校 5年 平尾 愛侖

習字でねしんけんにかく漢字をねそのときチャリンと落ちた文鎮

塩尻東小学校 5年 平尾 愛侖

文房具いろいろあつておもしろいどんんかわつてすぐなる文具

塩尻東小学校 5年 平尾 愛侖

文化の日おぶせにいくと言われてねすぐく楽しみおみやげをかおう

塩尻東小学校 5年 平尾 愛侖

文集を書いている時間何書くか考えこんで書き足していく

塩尻東小学校 6年 島立 庵

新しく文具を買おうと増えていく同じシリーズどう使おうか

塩尻東小学校 6年 島立 庵

どうやって文字数足すか考えてちよと付け足しおかしくないか

塩尻東小学校 6年 島立 庵

文集の割り付けするの大変だとかくやつたらちよとよかつた

塩尻東小学校 6年 島立 庵

お手本を見ながら書いていい文字が自分としては書けたと思う

塩尻東小学校 6年 島立 庵

色褪せぬ恋文そつと読み返す 後悔なんてなかつたように

高崎商科大学附属高等学校 3年 小川 真美

文月の今更気づく恋心浴衣の裾を静かに掴む

高崎商科大学附属高等学校 3年 小川 真美

ログインをすれば書き出しただけの文字「母さんへ」今つづきを書くよ

高崎商科大学附属高等学校 2年 松藤 柚希

憧れはきれいなだけだ絵の具とか汗にまみれている文化祭

高崎商科大学附属高等学校 2年 松藤 柚希

文かかえ黄河を駆ける鳩の目下たい焼き頬張る男の影

高崎商科大学附属高等学校 2年 高木 唯花

宵闇と文したためる別荘より海に偲んだ白身魚へ

高崎商科大学附属高等学校 2年 高木 唯花

逝きし祖母のブリキの箱に戦時下の祖父の文ありゆるく束ねて

高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

決めかねて先延ばししている私の未来は文と理に分かれおり

高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

チャイム鳴り静かに弾け飛ぶ文字の音に満ちてく中間試験

高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

ローファーで春に残りし文を踏む雪は優しい嘘のかたまり

高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

つまずいてあつーとこぼした文化祭ペンキがスローモーションで舞う  
高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

文はきてヤギに食わせる童謡を口ずさみかける国際電話  
高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

文字を読み頭に浮かぶ旋風『夢十夜』夏目漱石の風  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 明音

ただ生きる幸せをみる文学に多く望まず寄り添って行く  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 明音

はじまれば別世界なる文化祭まだピスを打つ板に心に  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 健太郎

異世界に迷い込んだか文化祭の無口な須田のギター速弾き  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 健太郎

LINEより手間も時間もかかるけど 文しか伝わりたくない想い多い  
群馬県立桐生高等学校 2年 新井 秀椰

文字からも文面からも心配性「私の字、汚くてごめん。」  
群馬県立桐生高等学校 2年 新井 秀椰

「またあそぼ」お道具箱に入れた紙 拙い文字は昔の私  
群馬県立桐生高等学校 2年 新井 秀椰

ヒカキンと 短歌作りだ 楽しいな 文々ハロー ユーチューブ  
群馬県立桐生高等学校 2年 家住 雄紀

放課後に時代錯誤の「好きです」を入れた下駄箱アナログの文  
群馬県立桐生高等学校 2年 宇田川 梨杏

望郷と無事を群馬の祖父母へと 伝える文はフロムアメリカ  
群馬県立桐生高等学校 2年 宇田川 梨杏

恋心秋になったらマンネリか? 緑の文につかない「既読」  
群馬県立桐生高等学校 2年 宇田川 梨杏

深夜二時「話そ」とライン通知くる「いいよ」とすぐに文返す  
群馬県立桐生高等学校 2年 梅澤 愛梨

今の世は文待たずとも友人の言葉知らせる通知音聞く  
群馬県立桐生高等学校 2年 大澤 菜々子

いと寒き 秋の終わりの 木枯らしよ 我が文天の 神に届かん  
群馬県立桐生高等学校 2年 小川 和也

そわそわと あく時を待ち 外を見る 手に持つ文に「明日帰ります」  
群馬県立桐生高等学校 2年 駒場 夏妃

文文文赤いバイクが山を越す蜂を飼う君蜜を待つ僕  
群馬県立桐生高等学校 2年 柴田 匠

文見るとあの時あの頃思い出す儂く散った花のようだった  
群馬県立桐生高等学校 2年 高瀬 響太

ペンを持ちあなたを思い夜が明けるあなたとの恋文とどまつて  
群馬県立桐生高等学校 2年 筑井 美唯子

私たち書く文もなく連絡も夜もあなたが浮かんでこなくて  
群馬県立桐生高等学校 2年 筑井 美唯子

文を待つかがやく月が満ちていく気づいた時はすでに新月  
群馬県立桐生高等学校 2年 西目 帆花

古木箱 ほこりをかぶる 年賀状 汚ない文字に 子供の思い出  
群馬県立桐生高等学校 2年 福田 温

初夏の昼 季節はずれの 風鈴の音 シュースと置き文 一人でごはん  
群馬県立桐生高等学校 2年 福田 温

故郷へと 思い馳せつつ 文編めど 言葉一つで 語れるものか  
群馬県立桐生高等学校 2年 茂木 優斗

年重ね 文を書く数 減った頃 送られ気づいた 文の嬉しさ  
群馬県立桐生高等学校 2年 神宮 桜彩

下駄箱の 手紙あくる手 ふるえねば、心なきやと 自らを知る  
群馬県立桐生高等学校 2年 清水 漣

今はひとり 昔の友の 文あらぬ 渡りたるべき 高砂の松  
群馬県立桐生高等学校 2年 佐藤 柚花

通知見てふと懐かしむ手書き文字画面に映る明朝と☺  
群馬県立桐生高等学校 2年 山崎 笙子

開け方を きれいに戻す 閉じ方を 誰か教えて 折り紙の文  
群馬県立桐生高等学校 2年 新藤 涼帆

色形 無地キヤラ付きに 折り方に 言葉と紙を 選び文書く  
群馬県立桐生高等学校 2年 新藤 涼帆

遙々と 風運びくる門司の街 文の中でも青波揺らぐ  
群馬県立桐生高等学校 2年 佐藤 貴久



# 高校生以下の部【自由題】

## 作品集

556人 927首  
投稿順に掲載



懐かしの思い出よぎる祖母と祖父懐かしの味懐かしの夏  
太田市立宝泉中学校 2年 荻原 ひなた

自分とは自分自身が好きなこと輝く自分自身を持つとう  
太田市立宝泉中学校 2年 高月 りん

見慣れない浴衣姿に胸打たれ花火見たふり君を見る  
太田市立宝泉中学校 2年 白石 みひろ

感動も普通の日々の一瞬も君の言葉で詠めば正解  
太田市立宝泉中学校 2年 白石 みひろ

夏休み危険が多い夏休み  
太田市立宝泉中学校 2年 新井 陽太

楽しみだ高校生活待ち遠しいでも現実には甘くない  
太田市立宝泉中学校 2年 竹澤 実玖

ミンミンと今年の夏もあつよいよ早くすずしくなつてと思ふ  
太田市立宝泉中学校 2年 関根 伶月

夏季課題やろうとしても後回し母に叱られ泣いてやる  
太田市立宝泉中学校 2年 高村 芽里

冷凍庫光り輝くアイスたち目をくらませる悪魔たち  
太田市立宝泉中学校 2年 高村 芽里

夏休みで楽しい思い出たくさんつくろう  
太田市立宝泉中学校 2年 五箇 惺南

先輩と一緒にいれるうれしさと近づいてくる引退の言葉  
太田市立宝泉中学校 2年 水谷 茜音

空に浮かぶスイカのようなあの雲は数分後には違う形になるだろう。  
太田市立宝泉中学校 2年 荒澤 希

今年も部活三昧の夏休み遊ぶ時間なんてどこにもない  
太田市立宝泉中学校 2年 正田 留伊

夏休み部活三昧頑張ろう勉強三昧もう疲れたな  
太田市立宝泉中学校 2年 早川 琴音

丸くてね緑と赤のおいしい野菜みんな大好きミニトマト  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

扇風機、かき氷、風鈴、対策しても暑いこの夏  
太田市立宝泉中学校 2年 大沼 翼

生きるには最低限は水と飯けど気合いがあればなんとかなるだろう  
太田市立宝泉中学校 2年 金田 唯希

世の中は全てが愛だと言っけれど母が言うにはそんな甘くないらしい  
太田市立宝泉中学校 2年 金田 唯希

夜おそく急いで帰るが母の顔見たら分かる時ずでにおそし  
太田市立宝泉中学校 2年 金田 唯希

宿題をやるのを忘れて先生に家に忘れたと中二の言い分け  
太田市立宝泉中学校 2年 金田 唯希

夏休み熱がおそう体育館バスケット部一同助けの声  
太田市立宝泉中学校 2年 金田 唯希

「おかえり」いつでもどこでもそう言う母疲れがふつ飛ぶ魔法の言葉  
太田市立宝泉中学校 2年 阪口 絵麻

夏休み宿題終わり友達と外に出かけて楽しい一日  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 幸太郎

世界には貧しい人がいっぱい募金をしてね貢献しよう  
太田市立宝泉中学校 2年 井出 大輝

暴力はみんなが困る行動だ見たら止めよう世界平和のために  
太田市立宝泉中学校 2年 井出 大輝

自然をね一人一人が工夫して守り抜こうよ未来のために  
太田市立宝泉中学校 2年 井出 大輝

夏の花ヒマワリも咲き笑顔も咲き夢も咲くヒマワリ畑  
太田市立宝泉中学校 2年 坂本 亜美

三年の引退試合暑い夏とにかく楽しんだあの日の僕たち  
太田市立宝泉中学校 2年 渡邊 颯斗

日焼け止め強い朝日に照らされて忘れてできる夏のマスク焼け  
太田市立宝泉中学校 2年 宮津 花

日照りつけ熱い空気を逃れるため起こる日陰の争奪戦  
太田市立宝泉中学校 2年 宮津 花

一年は思い出があり苦難よりも幸せがある  
太田市立宝泉中学校 2年 生方 愛来

あたりまえそれは誰かが今でもささえ続けてくれた  
太田市立宝泉中学校 2年 生方 愛来

秋葉原アニメイベント楽しんでワクワクしてる今日この頃  
太田市立宝泉中学校 2年 西川 祐生

友達と笑って泣いて仲良くねけんかなんてしちゃいけないよ  
太田市立宝泉中学校 2年 田村 綾瀬

八月はみんな大好き夏休み好きなことしてリフレッシュしよう  
太田市立宝泉中学校 2年 田村 綾瀬

将来のいろんなことを決めるのは親じゃなくて自分だよ  
太田市立宝泉中学校 2年 田村 綾瀬

間違った道を歩く友達を戻してあげて正しい道へ  
太田市立宝泉中学校 2年 田村 綾瀬

夏休み予定がたくさん楽しんだ友達と行く花火大会  
太田市立宝泉中学校 2年 佐口 真望

夏休み今年はあるかな夏祭り今年の夏の思い出だ  
太田市立宝泉中学校 2年 佐口 真望

最後の夏どう終わるかは今までの過程  
太田市立宝泉中学校 2年 阿倍 大紅郎

「海に行く」これが別れの言葉かも安全第一守って行こう  
太田市立宝泉中学校 2年 阿倍 大紅郎

人生に一度しか味わえない今この時を勢一杯楽しみたい。  
太田市立宝泉中学校 2年 成塚 心夢

当たり前のように家に帰ったら夕飯があることに感謝。  
太田市立宝泉中学校 2年 成塚 心夢

初めはね楽しんでた夏休み最後の日にはあせつて読書  
太田市立宝泉中学校 2年 松本 直大

夏休み家族と旅行バレーボール楽しんだ  
太田市立宝泉中学校 2年 岩崎 玲愛

もうすぐに夏休みになる勉強と遊びを二つしなきゃいけない  
太田市立宝泉中学校 2年 福澤 翔太

夏休み楽しいことがいっぱい海へ行ったり旅行に行ったり  
太田市立宝泉中学校 2年 堀口 梨緒

先輩の引退したあの夏は空もくもり雨もまた降る  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 飛羽

一度口に出した言葉はつかめないだから言葉は大切なのだ  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 飛羽

夏休み推し活ばかりで精いっぱい後に待っているたくさんの課題  
太田市立宝泉中学校 2年 阿久澤 美柚

部活では先輩たちがもう引退悲しいけれど私たちならできる  
太田市立宝泉中学校 2年 阿久澤 美柚

その別れひどく悲しいその思い人間強く別れ悲しぞ  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 佳蓮

ヒマワリの強い思いがインパクト誰にもひびく向日葵の夢  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 佳蓮

少年よ若きあの頃なつかしき今でも覚え夢のあるあじ  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 佳蓮

セミがさね生き生きと鳴くセミ達がそれを聞きみな夏と感じる  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 佳蓮

夏休み大会終わりがぬけて遊びまくってサイフからつば  
太田市立宝泉中学校 2年 江口 紗那

暑い夏アイス買えず冷凍庫入りきらずに一気食い  
太田市立宝泉中学校 2年 江口 紗那

コロナ化の少しさみしい夏休み家族みんなどこへ行こうかな  
太田市立宝泉中学校 2年 重田 琉位

暑くなり外に出るのも一苦勞冷たい物で癒やされたいな  
太田市立宝泉中学校 2年 重田 琉位

大切な物から先に消えてゆくそれでもがまんそれが大切  
太田市立宝泉中学校 2年 重田 琉位

暑い夏体からでる汗と熱体にしみるつめたいアイス  
太田市立宝泉中学校 2年 森田 琳己

晴天の暑い夏にする体育祭皆で一丸となる暑い夏  
太田市立宝泉中学校 2年 森田 琳己

長い夏全力でする部活動思い出になるのは短い夏  
太田市立宝泉中学校 2年 森田 琳己

この世界笑っている奴は幸せだ笑わない奴そんしているな  
太田市立宝泉中学校 2年 菅原 飛鳥

人の夢は亡くなるまでは生まれている人生あれば悪夢もあるな  
太田市立宝泉中学校 2年 菅原 飛鳥

宿題に手を付けてなく後悔を急いで終わらす夏の終わり  
太田市立宝泉中学校 2年 五十嵐 陽人

その旅は受け継がれるよその歌で一つ一つの思いがこもり  
太田市立宝泉中学校 2年 田島 由麒麟

ゴキブリは家ではゴミをあさるけど森ではすごいお掃除屋さん  
太田市立宝泉中学校 2年 山口 拓己

寂しいな先輩いない新チーム創り上げるぜ最高のチーム  
太田市立宝泉中学校 2年 佐藤 豪紀

夏の音川のせせらぎでセミの声色んな音で夏を感じる  
太田市立宝泉中学校 2年 大槻 歩夢

笑顔には幸せにする効果あり周りの人も笑顔にしよう  
太田市立宝泉中学校 2年 大槻 歩夢

拳上げ世界が一つにまとまると戦う拳下がり始める  
太田市立宝泉中学校 2年 長谷川 凌太

一学期あつという間に夏休み我には一生の想い出だ。  
太田市立宝泉中学校 2年 千金 優

夏の朝静かな通りに自転車をこいで奏でる涼しき音色  
太田市立宝泉中学校 2年 石川 未来

輝きは価値がなくても少しづつ磨いていけば輝くの  
太田市立宝泉中学校 2年 フォーカン

才能は努力を着飾るドレスだ  
太田市立宝泉中学校 2年 萩原 穂乃佳

勉強のコツがつかめず嘆く日々でもいつかコツをつかんでやる  
太田市立宝泉中学校 2年 木島 来斗

僕は成長し理想の僕へ近づけたでもこれは近づけただけなのだ  
太田市立宝泉中学校 2年 木島 来斗

流れるよペットボトルのスベリ台そんな私はそうめんなのだ  
太田市立宝泉中学校 2年 桑原 菜都音

雨脚が僕の心を白く染め流れきえさる春の思い出  
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 琉稀

会いたいと恥ずかしがって頼む僕その向こうには大人しい君  
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 琉稀

楽しいものはどこにでもおちている  
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 誠

夏休み運動することも大切だ  
太田市立宝泉中学校 2年 久保田 誠

なにげない毎日こそがどの宝物より大切だ  
太田市立宝泉中学校 2年 町田 彩美

どんなにね近道よりもデコボコの自分の道を歩いていこう  
太田市立宝泉中学校 2年 町田 彩美

夏休み、あつという間に進んでく一分一秒赴くまに  
太田市立宝泉中学校 2年 金井 勇樹

あの夏の思い出ばかりにたそがれてじっと見つめる大きな夕日  
太田市立宝泉中学校 2年 金井 勇樹

いつもより多いはずの休日がなぜこんなにも早いのだろうか  
太田市立宝泉中学校 2年 金井 勇樹

いつもそう楽しい時間は一瞬だまるであの日の豪雨のように  
太田市立宝泉中学校 2年 金井 勇樹

夏休みようやくくだけられど本当にそこにあるのは自由なのか  
太田市立宝泉中学校 2年 金井 勇樹

幼き日夢見たことは奥深く沈んでいつて道を変えゆく  
太田市立宝泉中学校 2年 岡田 波空

夏休みは楽しいななぜなら最高の思い出づくりができるから  
太田市立宝泉中学校 2年 鈴木 颯斗

夏休みは楽しくないだつて宿題がたくさんあるのだよもの  
太田市立宝泉中学校 2年 松下 姫葉瑠

なぜだろう同じ種数の人間は人間どうして戦争するの  
太田市立宝泉中学校 2年 櫻澤 潤

夏の二時海見ているようまつ青な空を見上げて君はほほ笑む  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

桜散る校庭にぼつんと君がいたこれ見れるのも最期なのかな  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

プール後セミが元気に鳴いていてみんな寝ている国語の授業  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

マフラーのぬくもり感じる冬の駅口から白い息が出てくる  
太田市立宝泉中学校 2年 小島 玲奈

夏休み家族みんなで花火買い家でパーティ楽しみだ  
太田市立宝泉中学校 2年 川上 奏斗

暑い夏試合に向けて皆努力。  
太田市立宝泉中学校 2年 茂木 優斗

市総体勝利の道はむくわれずくやしきバネに倍返し  
太田市立宝泉中学校 2年 深津 乃愛

世界中何百国もの国々がSDGsに取り組んでいる。  
太田市立宝泉中学校 2年 桑原 快生

ランドセルいろいろなの日々思い出す今日は叱られ雨の中下校  
太田市立宝泉中学校 2年 桑原 快生

人間はケガして学び次生かすケガを治してまた進化する  
太田市立宝泉中学校 2年 桑原 快生

授業中となりで寝むる友達をおこす自分とねむい友達  
太田市立宝泉中学校 2年 伊藤 美優

夏休み楽しみだけじゃないやなこと部活にゲーム課題たくさん  
太田市立宝泉中学校 2年 伊藤 美優

自転車で田んぼ道を走つたら曲がりきれずにはねたどる水  
太田市立宝泉中学校 2年 伊藤 美優

夏休み、みんなで海行つて楽しみたい。  
太田市立宝泉中学校 2年 高山 美心香

夏休み家族で楽しく海に行くそれが私の青春の1ページ  
太田市立宝泉中学校 2年 榎原 和紗

友達はいつもそばにいてくれて私の失敗助けてくれる  
太田市立宝泉中学校 2年 田島 妃菜

夏休みコロナ感染急増夏休みだが遊びに行けず  
太田市立宝泉中学校 2年 山口 智裕

闇の中辺りをそっと照らすのは月の光と線香花火  
太田市立宝泉中学校 2年 鈴木 みちる

がむしやりに夢に向かって走り抜き思いを繋ぐ仲間と共に  
太田市立宝泉中学校 2年 鈴木 みちる

夏の森四方からするセミの声一番感じる夏の良き声  
太田市立宝泉中学校 2年 中島 大晴

今年の夏は楽しい夏になりそうだ。  
太田市立宝泉中学校 2年 福田 夢華

市総体負けたら終わり悲しいが勝って思い出増やしていこう  
太田市立宝泉中学校 2年 山下 蒼空

夏休み時々会う何気ない友人との思い出話  
太田市立宝泉中学校 2年 梶原 紬

夏休みふと考える旅行後の終わってしまうそう失感  
太田市立宝泉中学校 2年 梶原 紬

夏休み色さまざまなきれいな花火  
太田市立宝泉中学校 2年 坂野 碧星

三年生最期の夏全力で勝ちに行くぞ県大会  
太田市立宝泉中学校 2年 坂野 碧星

炎天下汗水たらし取り組んだ部活動後の麦の味  
太田市立宝泉中学校 2年 高橋 昂大

今年でマスク生活三年目来年こそは終わらせた  
太田市立宝泉中学校 2年 ファンパンアントン

今年でコロナ生活三年目この生活に慣れたら終わり  
太田市立宝泉中学校 2年 ファンパンアントン

太陽が照りつける日の大会は三年生との最期の思い出  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

僕達の夏休みの思い出は空に上がった打ち上げ花火  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

生きているその事実があるだけで人の心は幸せになる  
太田市立宝泉中学校 2年 青木 優翔

部活中家帰ればかき氷  
太田市立宝泉中学校 2年 田中 彩愛

新人戦自分たちの代目指せ一位  
太田市立宝泉中学校 2年 田中 彩愛

サッカーで田に落とされ心燃え夏合宿で取り返す  
太田市立宝泉中学校 2年 嶋田 尊

夏休み友とプールではしゃぎたいそのあとみんなでお昼ご飯  
太田市立宝泉中学校 2年 嶋田 尊

夏休み力みなぎるフルパワー課題が終わらず泣くラスト  
太田市立宝泉中学校 2年 嶋田 尊

夏休み嬉しいけれどさみしいな四十日間友と会えない  
太田市立宝泉中学校 2年 嶋田 尊

夏休み課題や部活大変だでもたたくさんの思い出作り  
太田市立宝泉中学校 2年 山口 莉旺

夏休みほとんど毎日バスケある私にとって大事な時間  
太田市立宝泉中学校 2年 山口 莉旺

夏休み部活で大変だけれどいっぱい楽しいむぞ  
太田市立宝泉中学校 2年 グスマ マキオ

先輩と残りの練習部活動伝統受け継ぎ次の代えと  
太田市立宝泉中学校 2年 稲井 梨桜

勉強の後に祭りや旅行行き色々楽しみ充実の夏  
太田市立宝泉中学校 2年 矢田 幸太郎

全員戦力の伝統を受け継いでプレーする  
太田市立宝泉中学校 2年 宮川 芽衣

あの時流した涙忘れないそこから私頑張れたから  
太田市立宝泉中学校 2年 今井 優羽

ライバルは目の前の君だけではない最大の敵は過去の自分  
太田市立宝泉中学校 2年 今井 優羽

他人よりどんなに個性が強くても私は世界に一人しかないから  
太田市立宝泉中学校 2年 今井 優羽

俺様だけがこの世界の王にふさわしい  
太田市立宝泉中学校 2年 阿久戸 琉聖

ブーチンとプリント違いを確かめよう  
太田市立宝泉中学校 2年 阿久戸 琉聖

夏休みにいろいろな声聞こえるな楽しめるようわくわくがある  
太田市立宝泉中学校 2年 輪島 陽菜

青い空セミの鳴き声垂れる汗やっと始まるあつい青春  
太田市立宝泉中学校 2年 須田 麗愛

地球は一人一人の努力で新たな道が繋がっていく  
太田市立宝泉中学校 2年 松島 大翔

友達は約束なんてしなくても心の中でつながりあえる  
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

『悲しいな』そんな気持ちがあるのなら結果を出して恩返ししよう!!  
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

平和とは自然に生まれるものじゃない平和は自分で生み出すもの  
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

青春はとても楽しい時だから一分一秒楽しんでいこう  
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

ありがとこの一言が言えなくてもどかしい日々いつもごめんね  
太田市立宝泉中学校 2年 友松 明日香

雨が降る部活帰りの帰り道帰ると家は晴れ模様  
太田市立宝泉中学校 2年 片山 直樹

夏の花火を見ればよい一日になりそうだ  
太田市立宝泉中学校 2年 西内 勇翔

雨上がり空にかかる虹の橋私の心も晴れ模様  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

体育着のそでの毛玉が学校の日々を重ねた実りかな  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

走り去る過去に手をふり今日もまた未来の一步を踏みしめる  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

日傘から漏れ聞く蝉の合唱が次の一步を尻込みさせる  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

未来から時間は流れやってくる過去を背中に未来を歩く  
太田市立宝泉中学校 3年 目黒 杏

諦めず前向きでいこうもう一步まだまだ先は長いはず  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

あと一步ふみだせばまた新しい未来が君を待っているよ  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

人生は一步ずつ進むていねいにしたらさきには成功がある  
太田市立宝泉中学校 3年 金子 翔

見つめよう今の社会あるのかも今の問題あなたのそばに  
太田市立宝泉中学校 3年 鹿山 慧

けんけん歩あつまちがえたけんけんば人間はみなまちがえるんだ  
太田市立宝泉中学校 3年 江口 夏紀

夏入りで熱さが続くこの季節極暑の中最後の部活  
太田市立宝泉中学校 3年 福原 実也美

逃げ出した飽和していくよあの夏の日君と僕だけの旅僕ら二人逃避行  
太田市立宝泉中学校 3年 大澤 啄摩

ソフトボールチームで目指す日本一夢に向かった本気の戦い  
太田市立宝泉中学校 3年 長谷川 こころ

夢を見て歩いていてもいつまでも空に飛び立つ風船のまま  
太田市立宝泉中学校 3年 上田 駆

春と夏銅で終わって二回とも悔やみが残った最後の一年  
太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 李之助

歩きつかれて休むことさえ許されないなら自分がそれを許してあげる  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃紗

大切なものを大切にしようそうしないとひどく後悔する時が来る  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃紗

ふみだす 一步は重いけど次の二、三步はきつと軽々しく感じるよ。  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃紗

大きくなればこの大屈な時間も光ってみえてしまおうと大人は言った。  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃紗

君と見た今日の景色は前に見た夜景と似てたこれはキセキかな  
太田市立宝泉中学校 3年 佐藤 葵

ふみ出そう夢への一步その足で最初で最後の夢への一步  
太田市立宝泉中学校 3年 津久井 看哉

梅雨の中夏じゃないのに四十度今年の夏はものすごくあつい  
太田市立宝泉中学校 3年 田向 菜々

人々は進歩していくそのために必要なのはみんなの考え  
太田市立宝泉中学校 3年 田向 菜々

人生短いあいだ歩き続けやと見つけた希望の光  
太田市立宝泉中学校 3年 高野 果音

父と母いつしよに歩くあの道は小さい頃は歩幅が違う  
太田市立宝泉中学校 3年 田中 美通

つくろろうよ笑顔あふれる花道を明るい未来へもう一步  
太田市立宝泉中学校 3年 白田 貴一

悔しさの中もがき続けて埋めていく目標までのあと一步  
太田市立宝泉中学校 3年 大澤 七生

自主練習嘸み締め悔しさを諦め悪くただただ歩く  
太田市立宝泉中学校 3年 中川 芦人

いたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた  
太田市立宝泉中学校 3年 宮崎 彪馬

せつかな夏葉月になる前にやってきたまだ来なくていいよ暑いから  
太田市立宝泉中学校 3年 伊藤 心海

やってくる波に向かつて潮風がしぶきを上げて優しく抱く  
太田市立宝泉中学校 3年 利根川 智遼

あの時の気持ちを隠し送る日々今踏み出す時心の一步  
太田市立宝泉中学校 3年 西山 友菜

先生や皆と別れる修学旅行古しさあれど列車に乗る  
太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

この時代歩くことさえディスプレイ心との距離は離れることなく  
太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

去年は夜空に大輪咲いたのに今年はあるのか花火大会  
太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

小学生毎朝毎夕歩いてる懐かしくなった中三の夏  
太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

梅雨の時期体調崩し休みがち旅行の楽しみ奪っていった  
太田市立宝泉中学校 3年 久保田 小雪

目の前にいくつももある分かれ道自分の手でどれを選ぶか決める  
太田市立宝泉中学校 3年 高田 朔太郎

風邪をひく私にくれたゆきだるまつめたたいけれどあたたかい  
太田市立宝泉中学校 3年 新家 七海

散歩道髪たなびかすそよ風が花びらとともに青春運ぶ  
太田市立宝泉中学校 3年 角家 七海

毎日少しずつ未来へ歩み続けるまちがって道を歩まず正しい道を歩む  
太田市立宝泉中学校 3年 岡本 ヒロキ

本当の強い人たち弱音なしどんな時でもポーカーフェイス  
太田市立宝泉中学校 3年 栗城 ひなた

青い夏セミがミンミン鳴いている夜はずりリンリンリン  
太田市立宝泉中学校 3年 栗城 ひなた

父いびきうるさく起きて寝れないと思ってる不思議と寝れる  
太田市立宝泉中学校 3年 鶴谷 莉玖

見つかるよ未来の扉きつとすぐ歩いていこう一人じゃないよ  
太田市立宝泉中学校 3年 安藤 瑠那

予定した店探しても見つからず見つけて行くくと大勢の客  
太田市立宝泉中学校 3年 山本 碧

親友の別れ話を聞きながら横目で見る太田の市並み  
太田市立宝泉中学校 3年 森下 千洋

感性は一人一人についており  
太田市立宝泉中学校 3年 川瀬 龍之介

ウィルスと共に歩いた今までは無駄にならない予防の嵐  
太田市立宝泉中学校 3年 長沼 拓武

夕方に一人で歩くいつもの町は久々に見た祭りの町だ  
太田市立宝泉中学校 3年 福田 実優

やるべきだそう思っても時だけ歩み進みは半歩入試勉強  
太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 絢斗

思い出すブランコ乗って靴飛ばす感じた爽風半袖の中  
太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 絢斗

梅雨の中坂道上り訪れた清水寺は忘れられない  
太田市立宝泉中学校 3年 タン マイ

授業中耳をすませばセミの音眠気にたえて夏を感じる  
太田市立宝泉中学校 3年 青木 楓花

いつだって前を向けば大丈夫家族や友がそばにいるから。  
太田市立宝泉中学校 3年 木下 菜玲

つらい日々たくさん泣きたくさん笑い乗り超え戦った  
太田市立宝泉中学校 3年 井手上 七海

大会だけが人でで焦りだすでも救ってくれた最強サーブ  
太田市立宝泉中学校 3年 書上 和

ガラス越しに魚見るふと上見れば大きなエイ  
太田市立宝泉中学校 3年 渋谷 悠太

あと何分横目に写る高級車僕らの一步小さく見えた  
太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

アラームが鳴り響いてた朝六時時間を忘れてまだ夢の中  
太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

雨の中輝きはなつ金閣寺記憶にのこるあのはく力  
太田市立宝泉中学校 3年 大関 駿

いつまでも笑っていれば幸運は自分の周りに集まってくる  
太田市立宝泉中学校 3年 諸岡 恵利沙

七夕の短冊に書く願い事毎年同じ「身長伸びて」  
太田市立宝泉中学校 3年 堂前 美緒

苦しいが小さなことで進歩する夢に向かって地道な努力  
太田市立宝泉中学校 3年 荒木 洋人

夢目指し仲間を信じ進む道あきらめないでつかむ勝利  
太田市立宝泉中学校 3年 山崎 響人

夏になり外から聞こえる夏の音ゆうわくに負けぬ三年の夏  
太田市立宝泉中学校 3年 山崎 響人

雪溶けて緩やかな風頬通り山々の木も優しく揺れる  
太田市立宝泉中学校 3年 門倉 来夢

かぜひげば改めて分かる愛情を親の存在偉大に気づく  
太田市立宝泉中学校 3年 倉田 日月

真夏の日涼しさ求めて窓開ける人つてくるのはセミの声だけ  
太田市立宝泉中学校 3年 政野 向日葵

夏来たるさわぐ子どもを前にして心大きく見守るひまわり  
太田市立宝泉中学校 3年 大久保 はぐみ

関東の壁は高いが絶対につかんでみせる勝利の切符  
太田市立宝泉中学校 3年 吉田 ひとみ

ヒグラシの音を聞くたびよみがえる幼き頃の公園たんけん  
太田市立宝泉中学校 3年 片山 柊河

夏休み旅行に行くたび増えていく写真と思いで家族の笑顔  
太田市立宝泉中学校 3年 片山 柊河

この手にも不思議な力宿るかなあの日見た夢思い浮かべる  
太田市立宝泉中学校 3年 上田 菜七海

驚いたもう夏休みこれからも暑さに耐える日が続く  
太田市立宝泉中学校 3年 藤澤 樹花

『会いたい』と言葉にしても届かぬ想い組紐繋ぐ君との距離  
太田市立宝泉中学校 3年 田畑 朱音

滲む汗波打ち際のシユワシユワにキラキラ光る海ラムネ色  
太田市立宝泉中学校 3年 田畑 朱音

夜光虫静かな水辺気に入ったらされど寿命がもう来たみたい  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

十五夜のうさぎとびかう夜の街みな月を見て心魅かれる。  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

秋涼し夏の思い出ふり返る少し恋しいまた夏を待つ  
太田市立宝泉中学校 3年 渡辺 璃奈

七、五キロミニチュアダックス五キロ越え今はただのダックスフンド  
太田市立宝泉中学校 3年 滝澤 結

高駅でバケハとトシヤツ買つて着て細谷に着いたら母ビツ  
太田市立宝泉中学校 3年 滝澤 結

人生は夢と希望が増していき努力とともに道が広がる  
太田市立宝泉中学校 3年 尾島 零

セミの声聞こえてくれば夏きたるそれと同時に情熱きたる  
太田市立宝泉中学校 3年 笹山 拓海

自転車派手に転んで母口見せた母見てびっくり我が身ほうを  
太田市立宝泉中学校 3年 酒井 俊太郎

大切な仲のいい友楽しいはずとこのまま時間よ止まれ  
太田市立宝泉中学校 3年 丸谷 俐々華

日が差せば夏の始まりの合図だよ暑さに耐えれずスイカをガブリ  
太田市立宝泉中学校 3年 栗原 朔

みやげもの京都の景色がなつかしみ涼菓とともに味わう風鈴  
太田市立宝泉中学校 3年 立川 ゆう

かすみ空気持ちちばかりの蛍光灯類ぼる肉まん半月型  
太田市立宝泉中学校 3年 立川 ゆう

暑い夏時計の針の音響きわたる机に向かって受験勉強  
太田市立宝泉中学校 3年 津久井 蒼葉

家族の絆誰にも分らないただ一家私たちが知っている  
太田市立宝泉中学校 3年 津久井 蒼葉

「ありがとう」その一言で笑顔咲き一人につながり二人の笑顔  
太田市立宝泉中学校 3年 津久井 蒼葉

歩み寄る小鳥と一緒に犬のもと起きたら終わり逃げるほかなし  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

前進む努力しながら諦めず少し進めば未来近づく  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

歌うたう将来までの道歩み尊敬する人待ちどおしい  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

全世界コロナ現れ大混乱感染拡大新時代開始  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

お母さん応援お願い夢歩み私のためとあなたのために  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

学校でゾンビ出現大混乱感染拡大新時代開始  
太田市立宝泉中学校 3年 桜井 ルナ

虹を見て暖かくなりばかばかと心洗われ笑顔輝く  
太田市立宝泉中学校 3年 鈴木 悠里

くじけても歩き進んで前を見ればいつかはきつと輝く未来  
太田市立宝泉中学校 3年 松崎 朱華

進歩する未来を見つめ頑張りてペンをも熱く光輝けり  
太田市立宝泉中学校 3年 大川 凛空

桜の木次に咲くのは三月だ涙のお別れ新しい出会い  
太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

まだ知らないあなたの顔はどんな顔？マスクとれる日待ち遠しいなあ  
太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

川の声サラサラなくよ夏の声季節感じる夏のふうぶつし  
太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

桜の木ひらひら落ちる花びらは私の心ふるいたたせる  
太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

進歩する医療の発展生きてける一〇〇年時代まだまだ長い  
太田市立宝泉中学校 3年 相子 優衣

じわじわと涼しさ感じぬ部活中生ぬるい水と光る汗  
太田市立宝泉中学校 3年 塩田 あまね

昼過ぎの重たい陰と時計の針ふいに浮かんだメロスの激怒  
太田市立宝泉中学校 3年 塩田 あまね

雨の中班で歩いた京の都歴史を学んだ修学旅行  
太田市立宝泉中学校 3年 江口 絢香

新緑のホールで奏でた一つの音流れるメロディー余韻残して  
太田市立宝泉中学校 3年 江口 絢香

友達とお泊り会は楽しいいな色々話し盛り上がる  
太田市立宝泉中学校 3年 新島 達也

旅立ちに残るさみしさ瞳とじいろんなかたちが一歩ずつ  
太田市立宝泉中学校 3年 三田村 美咲

ふと見れば誰しもどこか風邪にゆれそれでも僕の歩みは止めず  
太田市立宝泉中学校 3年 三田村 美咲

こもれびに枝葉を広げ葉桜や花は散つても想いは消えず  
太田市立宝泉中学校 3年 三田村 美咲

雨なのにあなたは走り遠くへと涙にぜんぶ溺れるせいだ  
太田市立宝泉中学校 3年 三田村 美咲

やっぱりね笑顔で語り髪はなびく吹き抜ける風見える気がした  
太田市立宝泉中学校 3年 三田村 美咲

悔しかった中体連で味わった駆け抜けていけ市総体へ  
太田市立宝泉中学校 3年 齋藤 樹希

頭痛い希望があれば頑張れる志望校に向かって走れ  
太田市立宝泉中学校 3年 齋藤 樹希

大好きな推しが活動休止した悲しいけれどたえるしかない  
太田市立宝泉中学校 3年 村田 朱音

勉強をしようと思っただけのもの気ついたらもう10時近くに  
太田市立宝泉中学校 3年 村田 朱音

結びつく心と絆の一体化歩いていこう戦いの場に  
太田市立宝泉中学校 3年 小林 真悟

窓開けて涼しい風を求めても入ってきたのは生ぬるい風  
太田市立宝泉中学校 3年 小林 真悟

散歩道ふと祖母の背中を見てみたらいつもより小さく見えた気がした  
太田市立宝泉中学校 3年 和氣 由奈

夏の夜そらいちめんの星空にぼくはなんて小さいのだろう  
太田市立宝泉中学校 3年 萩原 志太

おみこしのあのかけ声は今となりや大声だめだ名残惜しい  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 服部 陽向

シャンプーで目を閉じたけど開けられずつきまで観てたホラースペシヤル  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 宮嶋 珠里

鮮やかな花火の後の白煙がすんで見える家族の笑顔  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 宮嶋 珠里

懸命に今日もやろう課題達それが終わる日ひぐらしが鳴く  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 星野 俊

額から吹き出る汗と漕ぐ自転車友と満喫夏休み  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 本多 正宗

三步進んで二歩さがる進む一歩を大きくするのは自分の努力だ  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 林 芽衣

どこ見ても緑広がるみなかみの自然を愛しぬくもり愛せ  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 篠田 空河

暑いけど暑いからこそ食べたいな湯気たちのぼるしょうゆラーメン  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

夏休みサブスクで見るアニメたち忘れられた宿題のゆくえ  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

オレンジのトンボが赤く染まってく空の青にもオレンジがまじる  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

二十九度暑い中で部活動曲練何度も三十度でも  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

家の外ポストの中に何かあるへたくソな夏の暑中おまじい  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 坂大 穂典

扇風器カラカラ回るいつまでもエアコンにはない夏のおもむき  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 森本 歩積

任せたぞ漢字プリント今日分夏の終わりをひぐらしがつく  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 森本 歩積

のそのそと蟬の幼虫ははつていくたつた七日の夜空に向かい  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 森本 歩積

綺麗な谷川・利根川は僕達に清らかな時を与える  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 岡村 洋杜

谷川の雪の様に清らかな心をもつ人になりたい  
みなかみ町立みなかみ中学校 1年 岡村 洋杜

夏休み家でごろごろ過ごす日々いつてみたいなまだみぬ世界  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

そうたい後負けた気持ちを忘れずにこれからもする今までのこと  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

夏休みもうすぐ終わるかなしいな宿題のこりあせりは増える  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

海の中もぐってみるとかわいいな小さなフグがいっぱいいるな  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 見城 篤人

田んぼ道風なびかせる稲穂はボクの心に夏とどろかせる  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

本当に仲が良いとは信頼し尊敬し合い助け合うことだ  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

いつだって笑顔の人にも不安がある心によりそい仲深めよ  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

スカイツリー見あげて思う人はなぜ高さを競う次はどこだ  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 長島 笑来

友達と一緒に見るあの景色みんなで作る夏の思い出  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

電車にのり窓にうつる自分の影きれいすぎて写真をとる  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

朝起きてスマホにうつる通知返信ゆつくり返します  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

八月に夏のワークを見てみるとやばいやばいと焦り出す私  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 竹内 千華

見上げれば夜空に咲く火花かな風は涼しく浴衣くすぐる  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 佐藤 ころ

夏休みどこにも行けんコロナ過で自分の楽しみ短距離走  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

夏の時期流しそうめんすればするほど夏を感じる  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

利根川のラフティング青色の水の上での暴れ天竜  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

暑い夏夏の定番スイカの実冷たいスイカ至福の時  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

きんきんのきゅうり一つこの味は夏の風物夏の思い出  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 尾崎 絢章

思い人会話や遊び静かな時いつも時間だけ過ぎていく  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

部活動夏の大会熱入り先生方声かかれていた  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

夏休み涼しい風がそよよと自然豊かで気持ちいいな  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

時過ぎるたいくつな日々変化なしくりかえされる僕の時  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

暑い夏夏と言ったらカキ氷友達と食べると格別美味しい  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

夏休み勉強時間を決めるけどなかなかやらまず先延ばし  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯島 陽心

赤い橋渡ろうとすればまた分かれ火を灯したらふと消えた  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

おはようと言われて思うは「遅かった」次からもっと早くしよう  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

友だちと協力すれば自分ではできないこともかならず出来る  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

うっそうと竹が生い茂る竹林もはたから見ればまた美しい  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

夏の夜の月光の射す縁側ですずむしの音が草に紛れて  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 咲帆

下見ると急にうごくセミ上みても虫の大群逃げ場ない夏  
みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼河

猫いても役に立つことはないけれどそこにいるだけで幸せになる

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼芽

カレンダーいつのまにとめくるたび時の早さに不安と希望

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼芽

教室に鳴る雷におどろくがその状況を楽しみなかれ

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 翼芽

みんなで遊ぶあの時間四人で過ごす時間が私の幸せ

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 幸乃羽

元気かな小さな体で沢山走る活発な君と沢山の思い出

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

かつこいい容姿と声に一目惚れ貴方に出会えて良かったです

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

ありがとうなかなか言えないこの言葉いつかは絶対言葉で言おう

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

休みの日いつもより遅く時間すぎとても楽しい幸せの時間

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

夏休み課題と部活の毎日で一日一日が短く感じる

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 雪花

大好きだ恥ずかしいけど伝えたい自慢の母に胸を張ってね

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 齋藤 彩

大好きな我が家の宝愛おしい離れたくない大好きな猫

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 齋藤 彩

これもダメこれもダメだと紙散らばる試行錯誤の短歌作成

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 蒼生

ガラガラと上から注ぐ日光は夏はまるでレーザーのよう

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 池田 蒼生

たくさんの鳴く声聞こえる夏の夜まるで一つの合唱

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 片野 了太

ポツポツと屋根からしたたる水の音聞こえて気付く雨あがり

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 角野 了太

ゴキブリもムカデもネコも皆違う命の重みは皆一緒

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 角野 了太

盆休みほおずきはぎに精霊馬祖父の笑顔を思い出しけり

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大翔

今日もな終わらないまま夏休みの宿題鬼のごとし

みなかみ町立みなかみ中学校 2年 林 大翔

ひとりゆくこころの旅のはて誰も知らず

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 久保 咲真

朝起きてウグイスの声聞こえるなあ今日もいい一日の始まりだ

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 長谷川 結菜

失敗は悔しいけれどあらたなるチャンスを生むキッカケとなる

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 久保田 侑太

猫じやれる窓の向こうにへばりつく蛙のうごく白い腹

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 原澤 絢南

失って初めて気付く大切さ失う前に大切に

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 林 佑哉

残暑の夜秋の虫の音聴きながら思い出あふれるおるごおるを聴く

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

炎天下球場いっぱい響く声野球を楽しむみんなの笑顔

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

期待と不安入り交じる中統合し心替える昔の自分

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

夏が来た今年の夏は盛りだくさんいつもの夏とは一味違う

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 見城 光祐

そよ風につれてゆられて夏の声思い出とともに過ぎ去ってゆく

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 石橋 幸明

夏休み最終日まででは残しとく宿題終わらず猫の手借りた

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 久保 若葉

夏風と供に流れる夏風邪に用心深く注意する私

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 久保 若葉

川のそば目を閉じきみと笑い合うずっとこうして笑っていたい

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 齋藤 美来

庭からの谷川岳の絶景が僕の心を癒やしてくれる

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 福島 大都

部活引退自分の体に喝入れる右手にお菓子左手ゲーム

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 鈴木 紗衣羅

みなかみの夏の初まり青い空虫の鳴き声川のせせらぎ

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 西山 太智

みなかみの夏は青い空に川暗い夜に明るく花火

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 石原 空透

午後7時夏休み明け周辺の夜焦る気持ちと走るペン先

みなかみ町立みなかみ中学校 3年 片桐 静流

四時頃に空を見渡しふと思っやっぱり冬は日が短いと

群馬県立利根実業高等学校 1年 牛口 南海

スノーボード絶対始める今年こそ出来るか不安だけど楽しみ

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 幸来

J Kは冬もスカート寒いけどタイツは履かない三年間

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 幸来

J Kは足を出したいスカートを折ったら最高寒さは我慢

群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 さくら

お年玉ようやくくれた高校生去年は五千今年はいくら

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 夏奏

月夜の晩暗く静かな帰り道今日も家まで灯しておくれ

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 夏奏

月明かり暗い部屋差すその光私の心も灯してくれと

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 みさと

当日のテストに焦るが謎の余裕返却時には絶望確定

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 みさと

あこがれの世界の舞台前にして仲間と未来かたむく心

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 真優

「彼女いる」知った秋の日の虚しさよ忘れはしない雨の降る夜

群馬県立利根実業高等学校 1年 郷原 琴

シロハラ吐く息白く冬感じ今日も帰るは陽気な我が家

群馬県立利根実業高等学校 1年 石坂 沙羅

クリスマス賑わう町の音楽と光が照らすあなたの横顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 琴音

秋の日にきれいなみじをみついたら上をみながらいもを食べたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 青柳 博大

君の名を知らずにぼくは君さがし初め会えた一夜の夜のこと

群馬県立利根実業高等学校 1年 赤崎 希

冬の日の山の頂上真っ白でも輝くうつくしきかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 和真

妹のうつくし笑顔見れば明日には消えぞ私の悩みも

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉真

秋の時期風に吹かれて落ち葉舞うきれいな紅葉あつという間に

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 歩輝

極寒の寒さに浸かる弓道場ヒーター置いてと顧問に求む

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮

勉強をしようと音楽流しても目に付く先はコメント欄

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮

放課後の教室から見る夕ぐれは今しか見られぬ時のものなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

テスト中消しゴム落ちた拾えない監督呼ぼうと教師寝ている

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

校庭で走っている人見ていると嫌でもなんだか走りたくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 工藤 翠優

霜柱冬を伝えるメツセージこたつに入りみかんを食べる

群馬県立利根実業高等学校 1年 勝見 早希

寒い夜こたつの中に足を入れたら中に猫が寝ていた

群馬県立利根実業高等学校 1年 飯村 杏花

白い息朝の空気が変わりつつ雪の降る日を待ちわびる日々

群馬県立利根実業高等学校 1年 大竹 莉緒

天仰ぐ自分の上を黒鳥が羽音響かす空虚な天色

群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 栞

前歩く猫を追いかけて路地裏へ雲を霞と姿消え去る

群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 栞

炎天下夏の暑さと反対に涼しそうだな空の水色

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮川 愛永

いつの間に冬が近づき寒い時期雪降る季節吹雪真夜中

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮川 愛永

教室の窓から見える紅葉は風に吹かれて地のじゆうたんに

群馬県立利根実業高等学校 1年 平形 杏里

秋の海時間とともに沈む夕日海に写ったまあるい太陽

群馬県立利根実業高等学校 1年 花茂 衣舞姫

秋の夕夏が終わりに近づいて冷たい風が知らせてくれる

群馬県立利根実業高等学校 1年 花茂 衣舞姫

白い雪少し降るだけ東京は比べてみるとここは多過ぎ

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸星 愛瞳

山の中耳をすませば鳥の声心落ち着く緑の景色

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 心音

放課後は電車の時間ギリギリで毎日走る私の日常

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 心音

放課後のジュースを賭けるジャンケン飲んだジュースは味が薄いよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 楓

何歳になってもやっぱり遊びたい朝窓から見る冬の初雪

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉澤 幸叶

宿題の作文期限今日だったどうにかなるさ強く生きよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 野村 彩心

おはようと母に言われるその言葉耳に入らず二度寝する朝

群馬県立利根実業高等学校 1年 峰川 柑奈

休日の床踏みならしシャトル追う疲れを忘れスマッシュを打つ

群馬県立利根実業高等学校 1年 萩原 来人

おはようのこの一言にはおはようの言葉を紡ぐすてきな言の葉

群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 陽依

夏休み課題におわれ休みなし来年こそは休みがほしい

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 向日葵

朝急ぐチェーン外れて大騒ぎ直してくれた恩は忘れぬ

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 竣平

話したい恥ずかしいけど話したい勇気を出して大きな一歩

群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 竣平

夏休み家族の思い出書きたくて迷みながらも作文に書く

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 香月

窓の外ながめる君を見つめてる目と目があってほしいと願ひ

群馬県立利根実業高等学校 1年 山後 梨愛来

教室で私を呼ぶ声響いている緊張しちゃうでも嬉しいよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 菜美

帰り際「じゃあね」と言つて笑つてる手を振る君に寂しくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 菜美

寂しさや聞こえてくるのは君の声火花なくして文目も分かず

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮内 菜美

振り返りどこか変わった通学路気づけば香るキンモクセイ

群馬県立利根実業高等学校 1年 三浦 真珠

雪の中斜面滑り波描く火照つた顔に心地よい雪

群馬県立利根実業高等学校 1年 本多 心乃美

いつも言うあいさつおれいありがとう心がきれい完璧な人

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 るりい

元気だね今日も言われるみんなからいつも変わらず元気に過ごす

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 るりい

辛いことたくさんあるよのりこえる見守っている幸せの文字

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 るりい

別れ時近付いてくる三月の末また会える日はそう遠くはない

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 叶実

ざるうどんお店ですする大合奏私はピアノノ君コルネット

群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 穂夏

ながれゆくどんな時でも変わらずに同じ時間と思えないほど

群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 日華

自転車からとても感じてる向かい風と体に伝わる空気抵抗

群馬県立利根実業高等学校 1年 原 光希

人生は楽しい事に意味がある生きるだけでは楽しくはない

群馬県立利根実業高等学校 1年 中島 希凌

クリスマス子供の夢を運んでく静かな夜に響く鈴の音

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 莉夢

高校で離ればなれで寂しいがあなたを思う夢の中でも

群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 里桜

かえり道姉と私の靴のねが響いて聞こえる田舎道や

群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 里桜

六月だ雨ふるなかで紫のきれいな髪があじさいのよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮

追っていたいつかその壁超えるため掛けず励む夢に向かつて

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 ゆう

雰囲気や顔に出しても分からない言葉にしないと伝わらない

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 柚実

世の治安良くも悪くもなるけれど調和すればきつと幸せ

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 柚実

動物も人も虫も同じはずでも自由は皆にもあるのかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 柚実

愛犬とお散歩するよだいたいいろしだいに暗く月は天辺

群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 權

お買い物小さい子供と手をつなぎどこにいったの子の両親

群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 權

親子供腹をかかえて大笑い肉体活かして全力「パワー」

群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 權

懐かしい探しものをしていたらあのとき撮つた笑顔の写真

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 陽

日本の木秋特有の美しさ紅葉手にとり記念にゲッツ

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 智紀



寒い朝中々起きず時間ないしじみ思う春の温もり

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 周斗

鳴り響くつながる音色午後6時暗闇の中の音楽室

群馬県立利根実業高等学校 1年 尾身 結菜

しも降りる寒さの中に季節あり冬の訪れ感じる雪虫

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 龍菜

寒空を見上げて燃ゆる流れ星小さき光に願う幸せ

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

上向けば続く赤色差す光一人歩いて行くもみじ狩り

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

画面越し初めて聴いた君の声夜中に響く天使の産声

群馬県立利根実業高等学校 1年 岡田 琴音

桜舞う二人で共に歩いた道差し出した手は空を切る

群馬県立利根実業高等学校 1年 大島 遼華

帰り道君と歩いたこの時間茜空に消えし独り言

群馬県立利根実業高等学校 1年 大島 遼華

夏空の下で遊んだ思い出は一生涯の宝物

群馬県立利根実業高等学校 1年 大島 遼華

忘れない君と遊んだ思い出は夏に浮かべた恋の味

群馬県立利根実業高等学校 1年 大島 遼華

いつか見たこんなセリフを言いたいな友を相手に練習中

群馬県立利根実業高等学校 1年 尾池 みのり

いま私の曲聴けばあの人を思い出さずことができるだろうか

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 杏菜

秋終盤日没早く肌寒いもようやく来たか冬の暮

群馬県立利根実業高等学校 1年 飯森 媛

初めてのバイトの試験きびしいな声ふるえても受かる面接

群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 琉心

冬の空見上げてみればオリオン座白い吐息の向こうに見える

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 愛音夢

紅葉をとなりで少し見ておいてこしはかぜをひかずにしよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 水落 亮太郎

風呂上がり通知が鳴っても駆けつけて心踊らせスマホを開く

群馬県立利根実業高等学校 1年 井熊 蒼依

金木犀甘い香りが鼻に抜け疲れたからだに染み渡る

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 優愛

夜空を見上げて燃ゆる流れ星小さき光になに願う

群馬県立利根実業高等学校 1年 田村 透也

また惹かれダウンロードしプレイするもっと早くに会えよかった

群馬県立利根実業高等学校 1年 関上 葉奈

新学期大きな不安緊張と新たな世界ここがスタート

群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 花音

入学し友達できた放課後はみんなでカラオケ楽しい時間

群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 蓮

あの曲を聞けばあの時思い出す今の自分はどの曲だろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 瑠偉

冬の朝寒くて家を出たくない学校あるしそろそろ行くか

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 要

ありがとうこれに対して答えないそんな奴にはそれ相応に

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 涼

雨が降るあの子のYシャツ透けてんで俺は学ラン透けてねえ。

群馬県立利根実業高等学校 1年 金子 幸也

たのしみはやることおわつてのんびりとかまをさすにスマホいじるとき

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 葉佑

好きぴから通知が来たと思つたら公式ラインかふざげんな。

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 葉佑

何気ない毎日にスパイスを探し求め続ける私自身

群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 陽生

お金に目がくらめば愛を失う、愛におぼればお金を失う

群馬県立利根実業高等学校 1年 塩野 大志

枯れゆく葉散り積もる雪片思いの僕まだ見えぬ君もう見えぬ君

群馬県立利根実業高等学校 1年 塩野 大志

外に出てまわり見わたし見つけた花小さなことでも君との思い出

群馬県立利根実業高等学校 1年 会津 歩華

秋の夜石焼きいもの音がするお金にぎりしめ走りだす姉

群馬県立利根実業高等学校 1年 会津 歩華

夏の末あの子にあげた青りんごあの子受けとらず甘ずっぱい

群馬県立利根実業高等学校 1年 小澤 聖司

秋の山赤く広がる紅葉が我が目を奪う美しさなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 庸司

散るもみじ行き着く先は土の中時過ぎ分かる土の冷たさ

群馬県立利根実業高等学校 1年 梅澤 飛成

たくさんの感謝の気持ちあるけれど一言で言う「ありがとう」

群馬県立利根実業高等学校 1年 根岸 真央

あなたとすごした何十年その生活に日は暮れぬ

群馬県立利根実業高等学校 1年 片山 悠聖

夏の朝朝日とともに起きる自分早起きすぎてやることがない

群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 永真

月見上げ君を思つて歌詠めば満たされていく心の盃

群馬県立利根実業高等学校 1年 木村 日陽

君の目に映る星空何億もの星のなから君を見つけた

群馬県立利根実業高等学校 1年 石井 晴貴

変顔をしろと言われても困るんだなぜなら僕は常に変顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 目崎 真飛

夏の夜道の端にはホタルたちたくさん光りたくさん飛んで

群馬県立利根実業高等学校 1年 小室 琥太郎

冬が来て冷たい風が吹いたとき青空高く枯れ葉がとんだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 玲雄

高校の生活に慣れ思い出す中学時代の仲間達の顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 上岡 拓未

数学が苦手て補習を受けたけど運命の出会いって突然なんだなあ

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 頌泰

二人きりの山登り下から見上げる君の笑顔は太陽からのプレゼント

群馬県立利根実業高等学校 1年 小山 創太

「走り出す」理由はなくとも美しくまるで一条の流星のように

群馬県立利根実業高等学校 1年 小山 創太

目に見える変化はなくとも身に染みる風は冷たし秋の訪れ

群馬県立利根実業高等学校 1年 小作 祥太

ああ利根川堂々流るるその様よ雄々しく強く心優しく

群馬県立利根実業高等学校 1年 小作 祥太

初一杯男の約束我が祖父と飲みたかったな缶チューハイ

群馬県立利根実業高等学校 1年 小作 祥太

君想い紙に名を書きすぐ消してそれでも消えない我が恋心

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 壮

知らぬ人記憶にはないその人の声聞いたとき思い出す事

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 智裕

後悔をすればするだけ得だろと言う人の胸に後悔はない

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 智裕

冬なれば雪がよく降り外白く子供は遊び笑顔が降るよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 福原 聖翔

高校の二日目箸を忘れてはしぶしぶ歩く職員室へ

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 叶空

遠回りその行動が近道なんてこの世にはない

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉翔

世界中赦さなくても僕だけは君の味方で愛し続ける

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉翔

覚悟とは暗闇の道輝き灯しその進む道切り開くこと

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 琉翔

帰り道歩みは止めずぼくはたださよならを言う練習をする

群馬県立利根実業高等学校 1年 笹田 拳伍

自由とは時には天国そうついに時には地獄表裏一体

群馬県立利根実業高等学校 1年 渡辺 龍聖

昼食に食べる牛丼待ちきれないすき家の上いく最高牛

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 朝幹

Z世代の心をつかむ現代短歌短歌フォトで共有したい

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 瑚虎

月と見て疲れとび冬を感じる再び疲れを感じ倒れこむ。

群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 晴登

のら猫に熱々の猫の恋凍えるほど寒き私のクリスマス

群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 晴登

今流行っているあのゲームヒーラーが初手で大戦犯

群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優妃

「昼の健康な時間に配信したい」この一言で始まった

群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優妃

秋晴れが広がる空のグラウンド響き渡る元気な声なり

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 一真

外掃除集めた枯れ葉風が吹き崩れゆくのは山か心か

群馬県立利根実業高等学校 1年 吉澤 豊

帰り道ふと顔上げて夕暮れ冬を感じる石油の匂い

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 心

秋晴れの日差しと風のハーモニイ外に出るのも悪くないかと

群馬県立利根実業高等学校 2年 鈴木 瑠奈

バイト中買われる食べ物浮かぶ料理蜜柑が来たら浮かぶ冬

群馬県立利根実業高等学校 2年 武井 杏樹

青空にヒラヒラ舞い散る黄葉色冷たい風に揺られ遊ばれ

群馬県立利根実業高等学校 2年 齊藤 舞

霜月になったばかりの指先が赤くなるたび冬の予感

群馬県立利根実業高等学校 2年 生方 翔子

赤黄緑段々と染まる山々に秋のおとずれ感じています

群馬県立利根実業高等学校 2年 関根 百合音

いつの日かこの手にぎるのぼくだからそれまでずっとここで待っていて

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 紅留未

妹とこたつに入りひと休みみやげ話を笑顔で話す

群馬県立利根実業高等学校 2年 堀江 紅留未

文化祭力を合わせ元気よくみんなで作る楽しい思い出

群馬県立利根実業高等学校 2年 林 歩未

膝抱えストーブの前に座り込むいつ身体は温まるのか

群馬県立利根実業高等学校 2年 小宮 羽菜

冬の朝無くなっていた小さなバケツ雪だるま用の帽子となった

群馬県立利根実業高等学校 2年 小宮 羽菜

冬来たる秋でも十分寒いけど恋しくなるよ羽毛布団

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮川 学徒

サツマイモ秋には必ず食べたいなホクホクのまま舌火傷した

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮川 学徒

教室の窓から見える桜の木葉っぱの色が四季を伝える

群馬県立利根実業高等学校 2年 平澤 月華

年とると時の流れが早くなる昨日入学今日卒業

群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 幸聖

初詣列んで並ぶ羽場日枝澄んだ空気と冬のかおり

群馬県立利根実業高等学校 2年 吉田 宗太

朝起きて寒い部屋から出れなくて寄りそう猫と布団で暖取り

群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 凜

田舎道しずかな夜空三人きりあなたを照らす月の光

群馬県立利根実業高等学校 2年 秋元 はな

ひらいた手「いってきます」と告げた口布と冷気に包まれていく

群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 美瑠

この瞳貴方を映すためにあるレンズをかざすだけで十分

群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 美瑠

かじかむ手白い息で帰る道家の明りにホットする自分

群馬県立利根実業高等学校 2年 須田 茉綾

暖房のスイッチ押してフライングまだ衣替え終わってないのに

群馬県立利根実業高等学校 2年 和名城 夢羽

この秋は一味違う寒さ来て錯覚をする「今は冬」

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮内 光里

授業中ふと外を見て予想する次に落ちる葉どの葉だろうか

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮内 光里

秋になり暗くなるのが早まるといつもと違う景色が見える

群馬県立利根実業高等学校 2年 宮内 光里

金木犀下校の細道安らいでそれも束の間冬の訪れ

群馬県立利根実業高等学校 2年 中村 依奈

諦めようそう思えば思うほど頭にうかぶあなたの笑顔

群馬県立利根実業高等学校 2年 中嶋 莉那

窓ガラスくもって見えない外の景色手でこすれば雪の世界

群馬県立利根実業高等学校 2年 近藤 瑠乃

寒い中ポッケから出てるあなたの手繋ぐチャンスだ帰り道

群馬県立利根実業高等学校 2年 片桐 香菜

三階の窓から探す今日の君こつち向いてよと願う私

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 沙和

寒い冬人肌恋しくなる季節今年も隣は貴方がいい

群馬県立利根実業高等学校 2年 桑原 凜

目の前で私の手は動かす時計の針は音をならす

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 小百合

肌寒いこの季節にはほかほかのおでんがなによりとてもおいしい

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 小百合

待っていて冬の寒さがあなたへの想いはもう冷めてしまった

群馬県立利根実業高等学校 2年 野上 夢奈

霜月になり朝起きて外見ると地面に霜下りつつ

群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 和仁

冬の猫ストープ前でヒゲ焦がす

群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 慧太

帰り道空を見ながら考える今日も会えたあの人のこと

群馬県立利根実業高等学校 2年 後閑 紅雅

待っていてねたった一度の晴れ舞台実際に来て見てほしい

群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 ちなみ

笑顔さえ消えてしまったあの頃に戻りたいなど日頃思えば

群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 ちなみ

広場ではシャボン玉キリキリとずつこのまま時が止まって  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 ちなみ

夜の町輝いているお星様流れていくよどこまでもゆく  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 ちなみ

外出ると風と一緒に落ち葉たち片付けながら秋を感じる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 柚子

日記のね書き始めだけまじめだが3日過ぎれば落書き帳  
群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 柚子

制服に袖を通して考える高校生活あと一年  
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸山 春和

寒い朝冬の訪れ感じつつ失われてく木々の紅葉  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小菅 杏佳

あなただけそんな言葉にだまされるか他の人にも言ってるくせに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 入澤 心

世界中コロナウイルスやってきたマスク生活いつまでなのか  
群馬県立利根実業高等学校 2年 諸田 はるな

あの曲は思い出と共に蘇る今の私はどんな曲だろう  
群馬県立利根実業高等学校 2年 角田 佳奏

金木犀香りに誘われ窓開けるふと感じる秋の訪れ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 古谷 仁奈

ふと見たら虹を見つけた嬉しいな雨あがりの日得した気分  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 まなみ

見上げれば青空綺麗雲なしで落ちつくんだよ見ているだけで  
群馬県立利根実業高等学校 2年 町田 まなみ

からっ風向日葵項垂れおちる種しみつく風景脳裏に浮かぶ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 金井 由美

心とは生きているからあるものだ心じき今私は生きてはない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

言葉とは人に伝えても消えるものだからこそ人は文に残すのだ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 福井 春

マラソンは日々の練習かかずに心にちかかった一位かくとく  
群馬県立利根実業高等学校 2年 倉品 肖那

新聞紙逆から読んでも新聞紙逆から見ても何も読めず  
群馬県立利根実業高等学校 2年 関 優獅

勉強部活試験に恋愛こんな日常無駄にできない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 増田 鈴世

みかん買いこたつを用意冬文度今は大変のちに落ち着く  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 龍誠

幸せは人によって違うから押しつけないで自分の幸せ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 成歩

裾丈を短くするがクシヤミで背伸びしすぎた十五の冬  
群馬県立利根実業高等学校 2年 池田 冨絵

8月は待ちに待った誕生日今年の祝いも友達いなく  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 美来

秋の山赤と黄色の紅葉が枯れ葉と共に空へ吹いてく  
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸川 翔

マラソンは自分の力ふりしぼりみんなの力元気に変わる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 戸川 翔

緊張で上手くない発表はいつものようにりんごみたいた  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里菜

冬の朝布団と共に起き上がる時間なくなり車で通う  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里菜

親友と出会ったあの時いつの日か知らぬ間にずつと一緒だ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 大坪 由里菜

指先が温まらないこの季節君がとなりについてくれないから  
群馬県立利根実業高等学校 2年 八木 里実

君からの返信を待つその時間とっても苦手だ早く返せ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 吉池 輝波

寒い夜あなたといるとあたたかいこの幸せが続きますように  
群馬県立利根実業高等学校 2年 吉池 輝波

移り行き色めく景色の中君が隣に居る日々続けと願う  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 愛花

お揃いでマフラー巻いて登下校微笑む君見て心もぼかばか  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 愛花

好きでしたさよならつづげる君の隣可愛い彼女とお幸せに。  
群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 結愛

イヤホンで音楽を聞く帰り道誰もいないと思っていたのに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 陽香

秋になり山の色が変わつてく紅葉終われば雪ふる季節に  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小池 蒼空

霜月の毛布を被る暑くなり外せば寒い振り返り帰るループ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 志賀 香音

広い道自転車駆ける人なし道こならではの風景写真  
群馬県立利根実業高等学校 2年 志賀 香音

マフラーを一人で巻いて歩いた光りまた来年も一緒に行こう  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 千夏

顔見たら好きと思うが本当に？会えなくなったら何も感じない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 千夏

午前2時行き交う恋人見て落ちる頬に輝く水の鏡に貴方はまだ映らない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 千夏

サツマイモ作業終わりに食べた秋チャイムが鳴って遅れた体育  
群馬県立利根実業高等学校 2年 中澤 夢

寒いねと言う君の手に棒アイス私もまねしてこたつアイス  
群馬県立利根実業高等学校 2年 中澤 夢

風が吹き揺れるすすきは私のようなあなたの言葉に揺れる恋心  
群馬県立利根実業高等学校 2年 南雲 彩香

秋なのに季節外れの雪がふり次の季節の足音なのか  
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 批愛

月と星いつ見ても美しい別の世界がそこに広がる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 実生

忘れな草見る度君を思い出す春に別れた君の好きな花  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

本当は全然合わない私たちが合わせていたの好きだったから  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

好きという気持ちはわからないけれどあなたと食べるご飯は美味しい  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 日瑠里

森の木が色づき始め来る季節修学旅行と秋の京都  
群馬県立利根実業高等学校 2年 我妻 璃一

近々と迫ってきているクリスマス今か今かと待ち続けている  
群馬県立利根実業高等学校 2年 河合 蒼太

君に言うこの冷えた手をどうしよう君は僕の手を握り言った  
群馬県立利根実業高等学校 2年 井上 太貴

紅の鮮やかな色山々に綺麗な色に染まりつづける  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田子 竜次郎

いつもではつらいはずの勉強が資格合格やる気満タン  
群馬県立利根実業高等学校 2年 川田 伊織

寒い朝隣の窓に目を向けて陽光注ぐ初めの一步  
群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 大河

近年の長い夏冬短い春秋すでに地球が壊れかけてる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 原 悠也

寒い秋紅葉まだかな紅葉の葉電車の中から紅雨かな  
群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 脩登

暑い日に砂はまに人埋められる青い海でサンバイザー  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高井 煌晟

紅絵の絵になるもみじとさつまいも食べてにつこりほつかほか  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高井 煌晟

榛名山祖父母に会いに行きければ辺り一面紅葉姿  
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 大雅

独りじゃないから一人でいられるの寂しくないよ隣に君が  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山之内 知夏

あたたかいコタツの中で丸くなる蜜柑むさぼる吾輩は猫。  
群馬県立利根実業高等学校 2年 水尻 和吹

スケボーして左手骨折大シヨックひたすら夢と願いたい俺  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 廉

入学後友達できず2年すぎ気づけばグループ入れない  
群馬県立利根実業高等学校 2年 田村 悠朔

「先輩」と昨日と同じ秋空に木の葉ひとひら歩む僕らに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 鈴木 旋瑠

黄色から落ち葉の絨毯変わるとき綺麗になりだす白樺の白  
群馬県立利根実業高等学校 2年 河合 悠真

夜明け前見とれるような星達の中に見つけた星のベルト  
群馬県立利根実業高等学校 2年 宇敷 怜奈

朝寒くあつ着で家を出てみるが日ざしいやられるまだ早かった  
群馬県立利根実業高等学校 2年 小野 龍星

長すぎる始業式で言った一言気が付けばもう葉が散る季節  
群馬県立利根実業高等学校 2年 村上 幸輔

あと少し趣味ができる季節来る雪とお金は溶ける一方  
群馬県立利根実業高等学校 2年 塩原 佑弦

AIが描いていた絵を見ていたよ僕よりうまいのなんか腹立つ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 隆一

政治家は都合が悪い新芽摘む今を変えるは立ち上がる心  
群馬県立利根実業高等学校 2年 橋壁 昊

ケガだらけ足痛いのに出た大会なぜか一回勝ってヤッター  
群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 友斗

忘れ物家に帰っても見つからず灯台暗く手の平の中  
群馬県立利根実業高等学校 2年 廣橋 杏馬

行く前は落ち込む気持ちアルバイト行くと押されるやる気スイッチ  
群馬県立利根実業高等学校 2年 廣橋 杏馬

帰り道「顔みたいだよ」弟が葉っぱと笑顔のプレゼントくれる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 仲澤 由依

友達を引っ張ることはできないが寄り添うことはできるから  
群馬県立利根実業高等学校 2年 水落 多恵

部活帰り友達と騒ぐ帰り道青春とは気付いたらそこに  
群馬県立利根実業高等学校 2年 宮田 翼

一年があつという間に流れて終わる来年に向けスタートをきる  
群馬県立利根実業高等学校 2年 山田 勇心

君の目を見おろし言葉が出てこなく後悔ばかりの3月1日  
群馬県立利根実業高等学校 3年 猪熊 雪乃

贈るのはホトトギスの花あなたにといつしか叶うその日まで  
群馬県立利根実業高等学校 3年 大澤 柚香

雪降る日猫の足跡探す度写真ホルダー真っ白だ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 瑠菜

愛猫を湯たんぽがわりに眠る夜ずっとこのまま起きたくない  
群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 瑠菜

空き缶をこみ箱になげ入っていったナイスシュート手をつき上げる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 美希

なにげない日々が過ぎ去る三年間一日一日つのる思い出  
群馬県立利根実業高等学校 3年 間嶋 美結

こちよい陽と風感じる秋晴れにこくこく迫まる冬の知らせ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 間嶋 美結

君の顔横から見るのが好きなのにあなたの背中ばかり見ている  
群馬県立利根実業高等学校 3年 三浦 真綾

くつ下をはくと君が立ち上がりキラキラの目でリード待ってる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 三浦 真綾

高い空明日の私遠い山近づくとも終わりはどこだ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 愛斗

針葉樹いつもは真っ直ぐ立っているたまには休みたくなる  
群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 愛斗

帰り道僕の瞳に映る君笑わせるのは僕が良かった  
群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 彪雅

行き止まり何もできずに悩む日々ふみだせたのはあなたがいたから  
群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 彪雅

ダイエット意気込み始めたその日の夜気づけばはし持ち肉と米の前  
群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 由萌香

漫画読み隣の友達短歌書く「頑張ってるね」ととりま笑う  
群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 由萌香

おかえりそのぬくもりに包まれるもう一つの安らぎの場所  
群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 美花

さようなら見えなくても前を向いて記憶の中で生きつつく  
群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 美花

席替えの窓側の席見渡せる秋晴れの空に学校の友  
群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 花恋

漫画読み「頑張ってるな」と笑う友おまえもはやく課題やれよ  
群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 美咲

君と逢い過去の記憶は消えさつてもう流れない私の涙  
群馬県立利根実業高等学校 3年 井口 玲桜

帰り際まだやだと言う君の声私の手にぎる君は涙目  
群馬県立利根実業高等学校 3年 井口 玲桜

夜道でのガサガサ音色なりひびくそろそろせまるけものように  
群馬県立利根実業高等学校 3年 石田 将義

寒い冬手がかじかんで字汚い暖かくなる字が超きれい  
群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 瑠々花

今年こそ彼氏とイルミ行きたいな一緒に過ごす最後の時間  
群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 瑠々花

君の傘小さいねと君が言う。大きな傘を差し出す優しさ。  
群馬県立利根実業高等学校 3年 五馬 玲奈

手を繋ぎ頬紅葉色「夕日のせい」そう言う君が愛おしい  
群馬県立利根実業高等学校 3年 関 姫愛

「買いに行こう」友と歩く放課後で並んで食べるアツアツおでん  
群馬県立利根実業高等学校 3年 関 姫愛

「頑張ってる」よくある五文字それでもね君が言うから魔法の言葉  
群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 希咲

また明日週五で交わすこの言葉この当たり前あと少しだね  
群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 希咲

帰り道好きな人と歩くため君をさそい共に歩く  
群馬県立利根実業高等学校 3年 羽賀 太一

雪が降る一人寂しく泣いた夜脳裏にうかぶあの子の笑顔

群馬県立利根実業高等学校 3年 羽賀 太一

寒い夜かじかんだ手と手ふれ合って手よりも先に温まる心

群馬県立利根実業高等学校 3年 平井 華耶奈

夏が終わる橙色の風が吹く虫も景色も植物も気候を忘れる秋を奏でる

群馬県立利根実業高等学校 3年 平井 華耶奈

あの夏を忘れてたまるか我が球史汗より涙が流れた試合

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 琥太郎

廊下から入ってくる風寒くても友達と話せば心あつたか

群馬県立利根実業高等学校 3年 野上 勇気

鈴虫が「お邪魔します」と羽鳴らす家の中には招いてないが

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 優里華

窓辺から夕日を猫と眺めてるはずだがその目はとんぼとらえる

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 優里華

ただいまと言いつつも慣れた言葉呟いた返ってきたのは秒針の音

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 柚奈

我が後乾いた音して振り返る赤い葉転がり秋感じる

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 柚奈

扉開け良い匂いと共に飛びかう言葉温かいご飯に涙こぼれる

群馬県立利根実業高等学校 3年 丸山 未夢

思い出す雨降る道を傘さしてあの日の夜は君がいたんだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮野入 まな

部屋整理見たことあつた小箱にはたくさんあつた古き思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮野入 まな

赤色のもみじが散らばり衣替え肌寒くなる季節が来る

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 朱葉

白い息吐いたらすぐに消えてしまふ冬もはやく終わってほしい

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 朱葉

十二年変わり続けた窓の外愛しい日々には別れを告げる

群馬県立利根実業高等学校 3年 長谷川 茉奈

駅への道君と一緒に帰る日々笑顔が絶えない幸せな時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 長谷川 茉奈

君となら寒い夜ですら愛おしく思ふのだから不思議なものだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 新木 美夢奈

冬が好き君が私に言ったから私も冬を好きになりたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 新木 美夢奈

おもてでは強がるもののいつ逢えるのかひそかに待ちわびる私の相手

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 結葉

試験の暗記深夜まで覚えたがラスト一問埋まらず逃がす努力のはなまる

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 結葉

遠回り青い椀を一人見る朱に染まる日誰かと見た

群馬県立利根実業高等学校 3年 織田澤 果凛

蘇るあり日の思い白いばら忘れられない私とあなた

群馬県立利根実業高等学校 3年 織田澤 果凛

金木犀秋の訪れ黄金色香りよ届け君にも届け

群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 ありさ

一面の空に泳ぐはいわし雲海まで続くどこまで続く

群馬県立利根実業高等学校 3年 清水 ありさ

あの時も寒いと言つてつないだ手いつしか君に伝えたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 須田 蘭

秋の空白い息でこの時間輝くきみは何想う

群馬県立利根実業高等学校 3年 須田 蘭

ドア開らきほほえむ君と目が合つて彼に向かつて小さく手を振る

群馬県立利根実業高等学校 3年 西尾 和花

向かい側5秒君と目が合つて目が合う時間高まる鼓動

群馬県立利根実業高等学校 3年 西尾 和花

カラカラと風で舞つてく枯れ葉たちもうすぐ来るねこえてく日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 乃々香

永遠はこの世界にないけれど君がいる時は永遠を願う

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤ノ木 涼夏

風が良い暑い涼しい寒いねとこの気持ちこそ日本かな

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤ノ木 涼夏

何気ない君のしぐさが愛しくて私は自然とシャッターを切る

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 優衣

今僕がこの世界から消えてもさ君は普段と変わらないだろう

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 優衣

起きてすぐ思つた寒いまだ十月ふと外見ると霜おりきかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 翔太

憧れの夢に近づきまた遠く雪降らぬ時期進み出せずに

群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 翔太

遠い日に愈けてい出来るは過去の自分、後悔してもなにも変わらな

群馬県立利根実業高等学校 3年 牛口 朔弥

愛猫が布団の中に入ってくる自分専用湯たんぽちゃん

群馬県立利根実業高等学校 3年 加藤 琉衣

あたたかい太陽出る日の昼食後睡魔と戦う勇者達

群馬県立利根実業高等学校 3年 金井 沙良

放課後の静まり返った教室で聞こえてくるのは楽器の音色

群馬県立利根実業高等学校 3年 金井 沙良

愛犬はご飯を食べると重くなる散歩をしてもなぜか重くなる

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 佑奈

帰り道友達置いて歩いたら背後からドタバタドタバタ逃走中

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 佑奈

君の声一度聞いては思い出す忘れない声でつむいだ言葉

群馬県立利根実業高等学校 3年 田川 遥果

彼を知り上手く話せない私だけ渡したお菓子で輝く笑顔

群馬県立利根実業高等学校 3年 田川 遥果

教室で待つているねと友が言う憂鬱な日もバスに揺られる

群馬県立利根実業高等学校 3年 竹沢 夕日

君が言うまたすぐ会えるよ大丈夫遠い距離でも近い存在

群馬県立利根実業高等学校 3年 竹沢 夕日

十月の冷たい風が心地良くやるときたかと秋を感じる

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 寧音

朝寒く布団に潜り二度寝する時間ギリギリ身支度焦る

群馬県立利根実業高等学校 3年 新島 颯汰

トントんと調理音で目が覚めてホカホカご飯ガツガツ食べる

群馬県立利根実業高等学校 3年 新島 颯汰

肌寒く体寄せ合う帰り道自然と早くなる帰宅時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 塗木 優花

登校時冷やした手のひら首もとに友に怒られはしゃぐ冬の日

群馬県立利根実業高等学校 3年 塗木 優花

白い息たった二人の帰り道あなたのポケットが私の手袋

群馬県立利根実業高等学校 3年 壺目 香果雅

こたつから出てきた愛犬抱きしめる我が家特権防寒対策

群馬県立利根実業高等学校 3年 壺目 香果雅

紅葉見て「きれい」と君が笑うから私は君に目を奪われる

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 心晴

図書室で君と二人で本を読む集中できずに横目でチラリ

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 心晴

ソファにて休んでいるとネコが来て顔にモフモフ至福の時間を

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 心晴

黒い馬いつものようにそこにいる今日限りだと思いつくぞう。

群馬県立利根実業高等学校 3年 増田 琉生

積もる紙またこの時期が来ってしまう暗号をどく地獄の時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 増田 琉生

秋景気山の奥には紅葉が風が吹いたらひらひら落ちる

群馬県立利根実業高等学校 3年 眞庭 菜月

みなかみの自然あふれる谷川岳季節のたびに変わるながめに

群馬県立利根実業高等学校 3年 眞庭 菜月

暑い中外で体育あつだるい先生の話しでもう十分

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 ひなた

久々に走り回った次の日は筋肉痛が膝神状態

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 ひなた

金木犀ふんわり香るハンドクリーム近くに秋がやってきたみたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 白井 そら

長距離走疲れた後の澄んだ風走るのは嫌いでもちよつと好き

群馬県立利根実業高等学校 3年 白井 そら

坂の上金木犀が秋桜に囲まれたからもう届かない

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 綾華

もぐりこみ布団で小さな寝息たて猫はどんな夢を見ているの

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 綾華

猫見ては「あー可愛い」と「どつしたの？」気づけば飼い主口癖になる

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 綾華

あなたの声あなたの仕事全ての動作に惹きつけられてばかり

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 日奈葵

夕焼けのきれいな空鮮やかな色写真に収める私の好きな色

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 日奈葵

朝方は寒い秋風吹いている大泣きをしたあの日を想う

群馬県立利根実業高等学校 3年 諸田 祐菜

君はいつ僕の気持ちを受け入れるのですかもう待てないよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 矢作 碧琉

真夜中に君を起こした嫌な事あったからさあ聞いておくれよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 矢作 碧琉

幸せをかみしめファミレスと飯しょっぱい水も悪くないかも

群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

夢なんていくらあつてもいいじゃない神になるのも悪くないよね

群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

創り出す未来も夢も自我さえも描いた全てがあなたそのもの

群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

体力無い私にとってジゴクのようなロードレースは休みたいなあ

群馬県立利根実業高等学校 3年 池田 思奏瑠

鮮やかに形が残り流れてくずつと忘れぬ二人の時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 川端 眞羽

少しずつ最後最後が増えてきて終わりが迫る高校生活

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 真花

憧れのあなたに会えただけで私にとっては幸せな日

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 真花

今の時期不安や苦悩があつたかと思ひ出に浸り笑い合つていこう

群馬県立利根実業高等学校 3年 関 優羽奈

朝寒くなるにつれ日に日に近づき訪れる卒業の日

群馬県立利根実業高等学校 3年 関 優羽奈

肌寒く秋を感じるあの香り香りに気づき黄色見つける

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛栞

雪がふり家でもこもって温まる幼いころは雪合戦

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛栞

金木犀香りうすれて散つていく地に花積もり黄金絨毯

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 愛栞

箱の中身はどうなっている？並んでいる？それとも乱雑？シュレインガーの猫

群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 楓佳

毎日のように話しているのに不安になるのは誰もがベルを被っているから

群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 楓佳

儂い希望、光を求めて歩ゆく阻む壁に君の無事

群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 楓佳

落ちていく心の中に一雫舞い行く蝶に光憧れて

群馬県立利根実業高等学校 3年 中村 楓佳

だんだんと起きれなくなる寒い朝眠い目こすりただ電車まつ

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 楓

人生は何においてもタイミンングタラタラしていると退屈人生

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 くるみ

なんとなく過ごしているとつまらない人生ながく楽しむものだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 大山 歩美

はなしてはいけなはずと彼の手を共にしんせい歩いていこう

群馬県立利根実業高等学校 3年 大山 歩美

赤とんぼ稲のまわりに飛んでれば少年あみ持ち虫かご用意

群馬県立利根実業高等学校 3年 飯塚 拓海

外見ると色付く木々の紅葉が秋の時間を感じさせてる

群馬県立利根実業高等学校 3年 川合 菜々海

「ただいま」と帰るとでてる晩ごはんあと何回食べられるのかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 川合 菜々海

寒くなり家族みんなで囲むなべ寒い期間の幸せ時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 七海

寒い時期恋人つなぎはかかせない寒い理由の私の幸せ

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 七海

髪下ろし雰囲気変わる帰り道初めてつけた香水漂う

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 礼菜

葉色付く山に囲まれた田舎道今年も食べたいおばあのご飯

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 礼菜

冬が来たカップルたちがおおさわぎ楽しいことがまっているから

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 純菜

ラブレター私の大事な宝物あなたの思いうれしかったな

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 純菜

食卓を囲む時間が幸せとしみじみ思う高三の冬

群馬県立利根実業高等学校 3年 治田 璃実

何気なく生活している毎日に多くの人の努力の影

群馬県立利根実業高等学校 3年 治田 璃実

この授業早く終われと思うほど時計の針は遅くなつてく

群馬県立利根実業高等学校 3年 山戸 咲理紗

毎日がとても疲れる日々ですが休日目指して頑張ります

群馬県立利根実業高等学校 3年 山戸 咲理紗

今回の中間テストがひどすぎる期末テストはなんとかします

群馬県立利根実業高等学校 3年 尾崎 聖凌

ついに来た秋季大会当日にやった仕事はほぼカメラマン

群馬県立利根実業高等学校 3年 尾崎 聖凌

つな引きで力合わせた思い出は最初で最後の学校行事

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 直樹

三年間つづけた部活動ふと思ひ出すあの時の音や声

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 直樹

桜散りふと思い出す仲間との思い噛みしめ新たな旅へ

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 律輝

寒くなり肌で感じる白い息季節の変化今年は早い

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 律輝

ドリフトは競技でありうまさを見せあう所楽しめませう。

群馬県立利根実業高等学校 3年 椎名 竜翔

野球は協力することが大切なこといい競技

群馬県立利根実業高等学校 3年 椎名 竜翔

寒い冬こたつに入りあたたまるうちに外では雪が降ってる

群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 礼人

恋別れ泣いても泣いても明ける日はいつでも思おう君とのであい

群馬県立利根実業高等学校 3年 南雲 颯汰

家をでる日々の楽しみ出し出される時は笑顔でまたね

群馬県立利根実業高等学校 3年 南雲 颯汰

親の味久しく食べるこの味に心が緩み涙ポロポロ

群馬県立利根実業高等学校 3年 林 宏樹

ささくれる割り箸タイプの人生飯が食べさえすればいいんだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 平澤 舜

俺ごとき死んでも回る世の中に抗うヴィラン生きてやるさ

群馬県立利根実業高等学校 3年 平澤 舜

心の中でひたすら願う悲しい現実

群馬県立利根実業高等学校 3年 阿部 直人

筋肉はこの世で一番信頼できる友

群馬県立利根実業高等学校 3年 井熊 曖琉

表情筋きたえてマッソーハッピースマイルイ

群馬県立利根実業高等学校 3年 井熊 曖琉

ファーストペンギンのように先頭に立って駆け出したい

群馬県立利根実業高等学校 3年 稲垣 寛太

ファーストコンタクトって別に目は悪くないよね

群馬県立利根実業高等学校 3年 牛尾 頼士郎

休日は午後起きると大体は何もせず時間無駄にする

群馬県立利根実業高等学校 3年 牛尾 頼士郎

六校時科学の授業憂鬱だ今日も時計とにらめっこ

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 大和

学校たいくつだけ友達と話す時間は楽しいかもね

群馬県立利根実業高等学校 3年 関根 大和

ある時から離れていった君の声ただそのわけを日々考える

群馬県立利根実業高等学校 3年 根岸 真尋

愛されるどんなに強い気持ちでも愛すことより越えることない心

群馬県立利根実業高等学校 3年 根岸 真尋

寒くなり温かい物がほしくなるたくさん食べて冬を乗り切る

群馬県立利根実業高等学校 3年 東 聖也

冬の朝目が起きてても動けない冬がいいのはクリスマスだけ

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 天樹

夏超えて秋が来ては肌寒い体調管理とても大変

群馬県立利根実業高等学校 3年 石坂 天樹

おぼれてる人はおぼれてる恋や仕事に日々おぼれてる

群馬県立利根実業高等学校 3年 内山 雅九

君のズボン驚ろくくらい軽かつた信号器前失のような視線

群馬県立利根実業高等学校 3年 内山 雅九

三年前抱いていた夢や希望今は不安に変わったな

群馬県立利根実業高等学校 3年 狩野 流星

学校に行きそのあとにある9時までバイトいつまでつづくこの生活

群馬県立利根実業高等学校 3年 狩野 流星

夕暮れの光を纏う紅葉の何とも言えぬ美しさ

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 蓮

秋の風にどこか懐かしさを感じつつ脳裏によぎるあの日の思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 蓮

朝起きて寒いと思いつつストーブを出そうと思つけどもう春だ。

群馬県立利根実業高等学校 3年 中田 留唯

山肌の色が変わるこの季節気付けばもう一年も終わる

群馬県立利根実業高等学校 3年 原澤 寧苑

手を振ると笑顔で返す知らぬ人あなたではなく奥の友へ

群馬県立利根実業高等学校 3年 原澤 寧苑

寒い冬手をあたたためると白い息回りを見ると雪がきれい

群馬県立利根実業高等学校 3年 笛田 貴仁

夏の空海を眺める自然たちかすかにかおる海水の味

群馬県立利根実業高等学校 3年 笛田 貴仁

コンビニで指先冷える一人の夜おでんを食べて明日も頑張る

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 慎之介

汁までは身体に悪いと思いつつ気づけば完食家系ラーメン

群馬県立利根実業高等学校 3年 山田 慎之介

今もお思い出す日々続いている忘れることない君との思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 大塚 悠真

最高な仲間と出会えた三年間数年したらみんなでも飲もう

群馬県立利根実業高等学校 3年 大塚 悠真

ひどいよなその気にさせていなくなる君がなんだかわからない

群馬県立利根実業高等学校 3年 鎌塚 海莉

重いかなくてもそのぐらい想ってるもうしたくない一方通行

群馬県立利根実業高等学校 3年 鎌塚 海莉

つらいよな君は知らない俺のことどいてほしいとなりの男

群馬県立利根実業高等学校 3年 鎌塚 海莉

悔しいなとなりにいるのは俺じゃなかわつてほしいその場所を

群馬県立利根実業高等学校 3年 鎌塚 海莉

飽き性が君といると飽きがこない戻してしまつた数字の針を

群馬県立利根実業高等学校 3年 鎌塚 海莉

秋がきて暑さおさまらずしくてちよどいよね気温の変化

群馬県立利根実業高等学校 3年 牧野 翔

寒さきて冬が近い山白く気温変化ちよどいよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 牧野 翔

結果から先にくる人生はどこを探しても存在しない

群馬県立利根実業高等学校 3年 横倉 心夏

何気ない言葉に悩まされようやく知つた友達止まり

群馬県立利根実業高等学校 3年 横倉 心夏

寒くなり地面や屋根に霜降りる犬も凍える朝の散歩で

群馬県立利根実業高等学校 3年 吉野 結音

コタツ出しゴロゴロ過ごす休日までできればずっと入っていたい

群馬県立利根実業高等学校 3年 榎岡 虎太郎

スマホ持つ冷えてかじかむ自分の手はやく電車来てほしい

群馬県立利根実業高等学校 3年 榎岡 虎太郎

朝起きてきれいに片付けられたキッチンを見て昨日の自分に感謝する

群馬県立利根実業高等学校 3年 小沼 菜美

かぜをひきおかゆを食べて体温まる母の味

群馬県立利根実業高等学校 3年 小沼 菜美

エゴイスト君に伝えるこの気持ち我慢できない困る君

群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 康太

頑張つたそれが大事と言つけれど勝たなきゃ心に定着しない

群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 康太

土曜日にいつも通りの登校日気分が乗らず上の空

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 悠河

帰り道いつもの友と遠回りしやべりながら向かう友の家

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 悠河

よく晴れた朝の空気は冷たくて冬を感じるこの肌寒さ

群馬県立利根実業高等学校 3年 倉澤 王我

赤色のきれいに染まる紅葉に秋風吹きてもみじ舞いゆく

群馬県立利根実業高等学校 3年 倉澤 王我

タリーズで東野圭吾読んでたら汗が出てきたアイスコーヒー

群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 勇斗

甲子園見てて野球がやりたくなり投げた直球100キロちよつと

群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 勇斗

セミの声ミンミンとうるさくて早くに起きる夏休み

群馬県立利根実業高等学校 3年 青木 永遠

慣れている毎日通った通学路気づけば残り後わずかだ

群馬県立利根実業高等学校 3年 青木 永遠

今週はいつもと違う一週間六日登校疲れもたまる

群馬県立利根実業高等学校 3年 岩片 大斗

学校の帰りに君と歩く道遠回りでも元より楽しい

群馬県立利根実業高等学校 3年 岩片 大斗

時が経ちまち育つ側草木枯れ日差し残れど消えし木漏れ日

群馬県立利根実業高等学校 3年 唐澤 将輝

友人とふざけて笑う日常の短い3年生の思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 唐澤 将輝

好きだよと僕が言えば返してくれる世界で一のオウム返し

群馬県立利根実業高等学校 3年 萩野 煌晟

純粋な君の瞳に写る僕実物よりもかっこいいかも

群馬県立利根実業高等学校 3年 萩野 煌晟

太ったとみんなに言われダイエツト三日坊主ですぐ諦める

群馬県立利根実業高等学校 3年 見城 陽大

ただいまとドアを開けるとそこにいる家族の顔を見て一安心

群馬県立利根実業高等学校 3年 見城 陽大

秋山に淡く芽吹いた紅葉と君の横顔いと美しき

群馬県立利根実業高等学校 3年 小岸 相夢

秋風にたゆたい浮かぶ歌声は小さきものの音楽会

群馬県立利根実業高等学校 3年 小岸 相夢

夕焼けの光が反射し光る川自転車に乗り帰路へと急ぐ

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 美結

他愛のない会話で笑う君の顔かすかに恨む帰路の道のり

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 美結

屋上のふちには立てたが踏み出せないままなのに、死にたくないなあ

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 美結

イヤホンで音楽聞いて帰る道今日から君の声を聴く道

群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 詩織

日本にはうまい飯あり娯楽あり親に一言「感謝します」

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 優太

夜食べるカップラーメン塩味が体に悪いと訴えてくる

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 優太

目を開けて雲一つない空を見るため息ついて今日を始める

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 薫

夜遅く今日の出来事思い出す目を閉じ眠り今日を終わらす

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 薫

あぜ道でかえるの音が聞こえるとなんとなく雨のにおいがする。

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 悠唯

学校の長い階段上るとき朝からとてもゆううつになる

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 悠唯

朝早くバイクの音で起こされて長い一日の始まりを感じる

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 悠唯

風呂上がり窓から寒さ感じるとその日の夜はたたくさんの布団

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 悠唯

起きなさいそう言われれば仕方なく体は起きるが頭は寝ている

群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 悠唯

君が好き伝えたいけどと言えぬまま青空見上げもう卒業

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 心

顔赤め二人で作った雪だるま僕の中では溶けはしない

群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 心

神無月山紅いまま寒さ冬が早起きすぎたのかな

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴村 柊羽

バス降りて辺りは薄明さつきまで紅かった空彼は何処へ

群馬県立利根実業高等学校 3年 柴村 柊羽

車窓から見える紅葉が秋風に吹かれ散りゆく秋の夕暮れ

群馬県立利根実業高等学校 3年 今井 拓海

最近冬が近づき寒くなり楽しみになる一面の雪景色

群馬県立利根実業高等学校 3年 今井 拓海

忘れたいでも忘れないもう一度俺の隣に戻ってきてよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 新木 紘弥

満開の桜をきれいと言おうように君にもきれいと言ってみたいな

群馬県立利根実業高等学校 3年 新木 紘弥

甲子園待ちに待ったよあの舞台最後にかける男の夏だ

群馬県立利根実業高等学校 3年 宇洞 和隼

ただいまと家に帰ったらご飯だよ家族みんなでおいしいご飯

群馬県立利根実業高等学校 3年 宇洞 和隼

だるいから少しさぼった部活動ちゃんやればと後悔する

群馬県立利根実業高等学校 3年 保坂 尚永

今度こそ課題早めに終わらせるその決心は心のどこかへ

群馬県立利根実業高等学校 3年 保坂 尚永

自動車の教習受けて震え出すハンドル握る手加速する動悸

群馬県立利根実業高等学校 3年 原澤 英佑

おいしいな母が作るお弁当無償の愛に惜しみ無き感謝

群馬県立利根実業高等学校 3年 原澤 英佑

負けられない全力プレーで立ち向かう試合が終わるその時まで

群馬県立利根実業高等学校 3年 鈴木 崇久

この気持ち言えずにいるもどかしさいつかは言いたい勇氣出し

群馬県立利根実業高等学校 3年 鈴木 崇久

駆け回る流れる汗と刺す日差しゴールをねらう勝ちたいがため

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 貴大

帰宅するドアを開けても暗い部屋をうだど気付く独り暮らしか

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 貴大

帰り道2人で聞いたあの歌はきみを見るたびせつなく思う

群馬県立利根実業高等学校 3年 丸山 修羅

外を見て君がいるたび思いだすあの日の歌やあの日の匂い

群馬県立利根実業高等学校 3年 丸山 修羅

見上げれば遥か広がる星の海畏怖と思うほど海の深さよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 空

百手うちついにむかえる決着は我からすればすでに過去なり

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 空

夏過ぎて秋がないまま冬になり去年より早くコタツを出した

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 りさ



友達の恋の話を聞いてみてしてみたいけどまだわからない

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 りさ

自分の中にあつた言葉が親を前にして消えていく

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 りさ

試合中ミスして落ち込む僕を見てはげましてくれる優しい仲間

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 大空

眠くなりベッドに入って眠る夜新たにひとつづれる楽しい1日

群馬県立利根実業高等学校 3年 茂木 大空

君のこと見かけるたびに見つめては思い出すのは君との思い出

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 陽太

秋おわり今年も来るは冬の時季あの子思ってたあたまたまろう

群馬県立利根実業高等学校 3年 綿貫 陽太

そうじ中くしゃみをしたら笑われたなにかそんなにおもしろいかな

塩尻市立塩尻東小学校 4年 細越 和樹

こんには地いきの人におじぎするあいさつとても大切なこと

塩尻市立塩尻東小学校 4年 細越 和樹

秋がすぎもう冬になった車のまじこおつてきたとにかくさむい

塩尻市立塩尻東小学校 4年 立道 はな

ほいく園4年いっしょの先生は元氣してるかな会つてみたいな

塩尻市立塩尻東小学校 4年 立道 はな

習い事、今はダンスも習つてるHIPHOPとても楽しい

塩尻市立塩尻東小学校 4年 立道 はな

雪ウサギ体はまっしろ目はまっかあわせてピンクかわいだけかな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

空かいせいだけど気温は3度以下すぐさむいのがそれが秋の風

塩尻市立塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

冬のつらすぎとおつてはきれいだながやくこおりたぐさんあるね

塩尻市立塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

家族たちみんなでいると温たたいこうしている安心するな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

もみじさんあなが3つだ顔みたいパンジーみたい春のはつ葉か?

塩尻市立塩尻東小学校 5年 岸田 玲那

放課後に部室にこもつてぬくぬくとふとんにまくらもう出たくない

塩尻市立塩尻東小学校 5年 白木 千愛

朝おきるのぼけたままでしたくして妹つれてさあ学校だ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 白木 千愛

おみそか重いまぶたをこすつたら十二時ちょうど高くジャンプだ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 白木 千愛

たん生日家族みんなでお祝いだよつぱり少し気はすかしいな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 白木 千愛

冬ですよだからさむいよいきたくないでもがんばらなきゃしんぼるぞ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

マラソンだ去年やつてないだからやるのがんばつて2年の力だすぞ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

いつまでも友達といたいなでもむりかでも友達は続くのだよん

塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

クラスのねふしぎちゃんかねるんだよでもわたしもねふしぎちゃんだよ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

さむいなあつかつたりねするんだよむかつくせついましかな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 まつざわ ゆあ

冬だけどあたたかいね小春日和だいつも晴れだといいい気分だね

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 有己

コタツとは勉強やめるま法かなねればねるほどぬくぬく育つ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 有己

おいしいねみんなで囲むなべ料理温かい火がみんなを囲む

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 有己

友達と遊んできそつてついに仲良〜しよに大新友

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 有己

夏の夜火花が空に咲きみだれみればみるほどおく深い

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 有己

あいことばハイテンションでいましよねいつでも元氣いieiiei

塩尻市立塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

桜はねいつでもはなやかすこいよな元氣をもらつ特別な花

塩尻市立塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

しゃぼん玉すぐにわれるよおかしいな水とせんざいませて作るよ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

空見れば晴れるや秋の景色あり夏の景色もおだやかですよ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

あの日見たともきれいな夢色をいつまでたつてもわすれはしない

塩尻市立塩尻東小学校 5年 小澤 莓果

動画係えいがを作るホラーえいがでも楽しいなけだいたい本がな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 平尾 愛徠

クリスマスプレゼントはどうしよう犬をたのんで犬をかえるかな

塩尻市立塩尻東小学校 5年 平尾 愛徠

体育館ヒヤヒヤひえるあーさむいけどうげばねあつたかくなる

塩尻市立塩尻東小学校 5年 平尾 愛徠

なんだこれなにかのはつぱいやものかえつうごいたあつらねこか

塩尻市立塩尻東小学校 5年 平尾 愛徠

秋もみじこうようはじまり赤くなるきれいになつてきいなこうよう

塩尻市立塩尻東小学校 5年 平尾 愛徠

宿題を急いで終わらせ階段をかけ降り走り間に合つてくれ

塩尻市立塩尻東小学校 6年 島立 庵

紅葉で周りの山がカラフルにこれが終わると冬がはじまる

塩尻市立塩尻東小学校 6年 島立 庵

テレビ見てデータ放送やつてるか確任したらチャンネル変える

塩尻市立塩尻東小学校 6年 島立 庵

ひまな時だいたい読書本だながすきまだらけでもどさなければ

塩尻市立塩尻東小学校 6年 島立 庵

よゆう持ち家を出たけど時間たち時計を見たら時間ぎりぎり

塩尻市立塩尻東小学校 6年 島立 庵

思い出は物語へと変わりゆく祖父のお猪口にひかり浮かんで

高崎商科大学附属高等学校 3年 小川 真美

夕焼けを背景にして君を撮る陽の伸びてゆく高三の夏

高崎商科大学附属高等学校 3年 小川 真美

秋時雨 肌は冷たく心には恋を失う熱を感じる

高崎商科大学附属高等学校 2年 松藤 柚希

液晶をとおして見てる海の青その海の他の色を知らない

高崎商科大学附属高等学校 2年 松藤 柚希

帰宅後の私の冷えた手のひらを白髪の魔女はやさしく包む

高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

似た日々を送る私にさりげなく秋を知らせてくれる木屋

高崎商科大学附属高等学校 2年 井上 綾乃

茶毛猫と黒猫かさなるハーモニーわらびもちとはやわらかい猫

高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

値引きされ狭いソファに親ぐまと子ぐま並んで手を繋ぎおり

高崎商科大学附属高等学校 2年 新井 愛海

足つって溺るる海であくる日の羊水の海で母徳ぶ

高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

山火事のような紅葉サイレンを聞きて急いで消す落ち葉焚  
高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

抹茶立てる響きがいいと友の言う明日締め切りの課題ある我に  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 明音

振り返りしあわせ探す汽車に乗るへひかりのなかで結末思う  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高崎 明音

冬の朝つんざく空気今一度ベッドに深く沈みて眠る  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高橋 健太郎

風のように気持ち全部置き去りにしてゆく景色 イヤホンつける  
高崎商科大学附属高等学校 1年 高橋 健太郎

膨らんだ手紙入れのクリアファイル開く沸き立つころ見えるはかすみ 春と手紙  
群馬県立桐生高等学校 2年 下山 拓人

今は亡きおじいちゃんへの手紙かく頭に描くふたりのメモリー  
群馬県立桐生高等学校 2年 金野 七海

おもいこめ親戚からくる新米を食べるよりはやくひらくポチ袋  
群馬県立桐生高等学校 2年 山崎 笙子

配達のパイク音待つもどかしさ今やすぐ来るスマホの通知  
群馬県立桐生高等学校 2年 山崎 笙子

※本作品集は一般の部とともにみなかみ町ホーム

ページに令和4年3月以降に掲載されます。

第6回若山牧水みなかみ紀行短歌大会  
高校生以下の部作品集

発行日

令和5年(2023)3月5日 発行

編集／発行

若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321番地1

みなかみ町教育委員会生涯学習課

電話0278(25)5025

令和4年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第6回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和5年(2023)3月5日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

共催 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・おちあいしんぶんマイタウン  
たにがわ・沼田エフエム放送株式会社・(一財)三国路与謝野晶子  
紀行文学館・三成社株式会社

